



事業計画及び成長可能性に関する 事項

株式会社リボミック(証券コード 4591)

2026年6月

目次

- 会社概要とアプタマー
- 事業内容と成長戦略
- 財務概要
- その他

目次

- 会社概要とアプタマー
- 事業内容と成長戦略
- 財務概要
- その他



会社概要

会社概要と社名の由来

会社概要

商号	株式会社リボミック
本社所在地	東京都港区白金台3-16-13
設立	2003年8月1日
代表者	代表取締役社長 中村義一
資本金	872百万円 / 資本剰余金 5,156百万円 (2026年3月末)
事業内容	核酸アプタマーを用いた分子標的薬の開発
役員・従業員数	取締役 6名 / 監査役 3名、従業員 25名 (2026年3月末)
子会社	RIBOMIC USA Inc. (米国)

社名の由来



自社の開発に重要な RIBONUCLEIC ACID (リボ核酸) と MIMIC (擬態) の造語です。

ここでのMIMICとは、分子擬態*を示しております。

*分子擬態とは、上記の図のようにリボ核酸等がタンパク質と同様の形をつくり、タンパク質のように生体内で機能することです。

沿革とアライアンス

沿革	年号	アライアンス
創業者 中村義一 東京大学教授、分子擬態の発見	2000	
株式会社リボミックの創設	2003	
*初アプタマー医薬品(Macugen®)の承認	2004	
	2005	東京大学:共同研究契約
本社移転(現在の住所)	2007	
	2008	大塚製薬株式会社:長期共同研究契約 塩野義製薬株式会社:共同研究契約
*SELEX法(アプタマー取得方法)の特許失効	2011	全薬工業株式会社:RNAアプタマー創薬の技術アドバイズ契約
東京大学医科学研究所「RNA医科学」社会連携研究部門設置	2012	
マザーズ市場に上場	2014	藤本製薬株式会社:抗NGFアプタマーのライセンス契約
	2017	アステラス製薬株式会社:共同研究契約 大塚製薬株式会社:抗MKアプタマーのライセンス契約
臨床試験:wet AMD P1/P2a(米国) 2018-2019年	2018	
臨床試験:wet AMD P2(米国) 2019-2022年	2019	ビタミンC60バイオリサーチ株式会社:共同研究契約
臨床試験:ACH P1(日本) 2020-2021年	2020	韓国 AJU薬品株式会社:RBM-007(wet AMD)のライセンス契約
	2021	あすか製薬株式会社:共同研究開発契約
臨床試験:ACH P2(日本) 2022-2026年	2022	
	2023	味の素株式会社:共同研究契約
ACH治療薬候補品 希少疾病用医薬品指定ODD(日本) 創薬支援事業 開始	2025	リードファーマ株式会社:創薬支援事業の共同研究契約
臨床試験:ACH P3(日本) 2026-2029年 予定	2026	日産化学株式会社:創薬支援事業の共同研究契約 韓国 SK Plasma Co., Ltd.:創薬支援事業の共同研究契約 大手製薬企業:創薬支援事業の業務委託契約

*外部要因

マネジメントチーム ~新規役員体制~

*第23回定時株主総会で承認を前提

● 取締役



代表取締役社長CEO
創業者

中村 義一 PhD

東京大学 名誉教授

RNA研究の第一人者。東京大学では、タンパク質合成マシンであるリボソームの研究に長らく従事し、遺伝暗号解読から40年間謎であったタンパク質合成の終結の仕組みを世界で初めて解明した。その過程で、タンパク質とRNAの分子擬態という新しい生物学的概念を発見し、これがリボミックのアプタマー医薬品の研究開発の基礎となった。



取締役研究開発本部長

安達 健朗 PhD

東京大学大学院薬学系研究科
博士課程卒



社外取締役

松藤 千弥 MD PhD

東京慈恵会医科大学 学長・理事



社外取締役

藤原 俊伸 PhD

近畿大学薬学部医療薬学科 教授・薬学研究科長

● 監査等委員である取締役（社外）



西畑 利明 PhD

元 参天製薬㈱
取締役専務執行役員米国・欧
州事業管掌兼研究開発本部長



貝阿彌 誠 弁護士

大手町法律事務所

元 東京家庭裁判所 所長
東京地方裁判所 所長



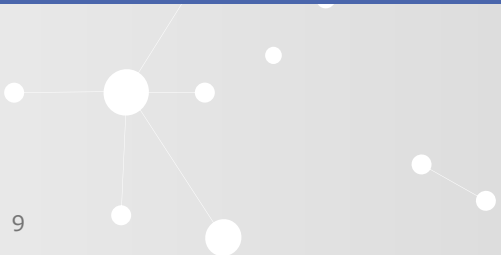
山本 守 公認会計士

株式会社日本橋アカウンティングサービス
代表取締役社長

元 有限会社 あずさ監査法人 代表社員・パートナー



アプタマー創薬 当社の技術基盤



飛躍する核酸医薬: アプタマーもそのひとつ

Aptamer

標的分子に特異的に結合する1本鎖の核酸。立体構造を持つことにより、抗体よりも特異的に標的分子へ結合する。
製品: Macugen[®]、IZERVAY[™]

mRNA

標的遺伝子と同じ遺伝子配列を持つmRNAを脂質に梱包し、細胞へ導入する。mRNAが細胞質で標的遺伝子のタンパク質合成を行う。
製品: Comirnaty[®]、Spikevax[®]
他5品

CRISPR

標的遺伝子と同じ遺伝子配列を持つガイドRNAを用いたゲノム編集技術。標的遺伝子の改変をすることによってタンパク質合成の発現を制御する。
製品: CASGEVY[™]

核酸医薬

RNAi

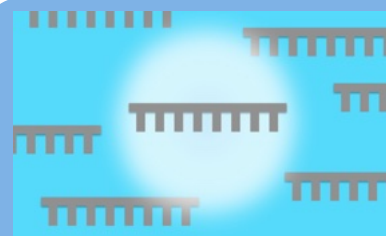
二本鎖RNAと同じ塩基配列を持つmRNAを分解する現象。標的遺伝子を抑制するsiRNAが治療薬では主流。
製品: Onpattro[®]、他7品

Antisense oligonucleotide

標的遺伝子と同じ遺伝子配列を持つ1本鎖の核酸。標的遺伝子のタンパク質合成の発現を制御する。
製品: Spinraza[®]、他13品

アプタマーとは:核酸の造形力を利用した結合性分子

What's RNA Aptamer?

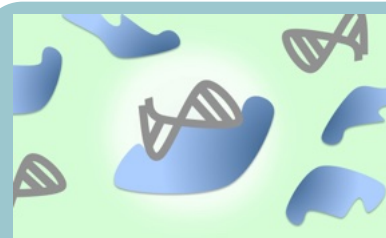


RNAは4種類の塩基 A・U・G・C から成り立っており、アプタマーは1本鎖のRNAで構成されている

1本鎖のRNAは溶液中や生体内では不安定なため、塩基対同士が対をなし、立体構造を組んでいる



立体構造を組んだアプタマーは標的分子に特異的に結合する

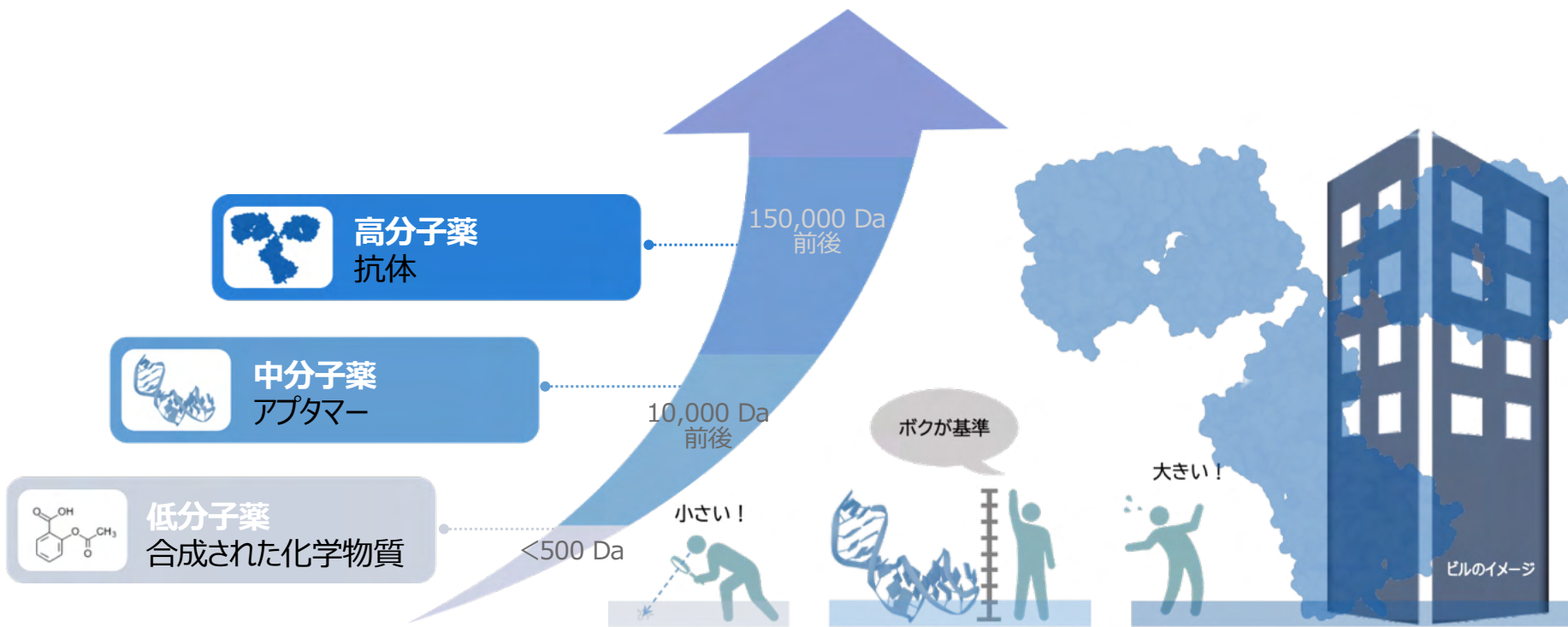


アプタマーと他の医薬品との比較

	 低分子医薬品 低分子薬	 アプタマー 中分子薬	 抗体医薬品 高分子薬
大きさ（分子量）	小さい（500以下）	中くらい（10,000前後）	大きい（100,000以上）
活性・結合力	中～高	極めて高い	極めて高い
選択性・特異性	低い	極めて高い	極めて高い
標的の認識領域	狭い	広い	中くらい
生体内安定性	低～中	中～高	極めて高い
製造方法（コスト）	化学合成（低）	化学合成（中～高）	細胞や微生物を用いて合成（高）

アプタマーは、ターゲットとなる分子へ特異的に結合して、その働きを阻害したり、促進する事により、病気の治療を行う医薬品(分子標的薬)です。大きさ(分子量)から中分子薬に分類されます。病気のターゲットに対して、それぞれの特徴を活かした医薬品の開発が重要です。

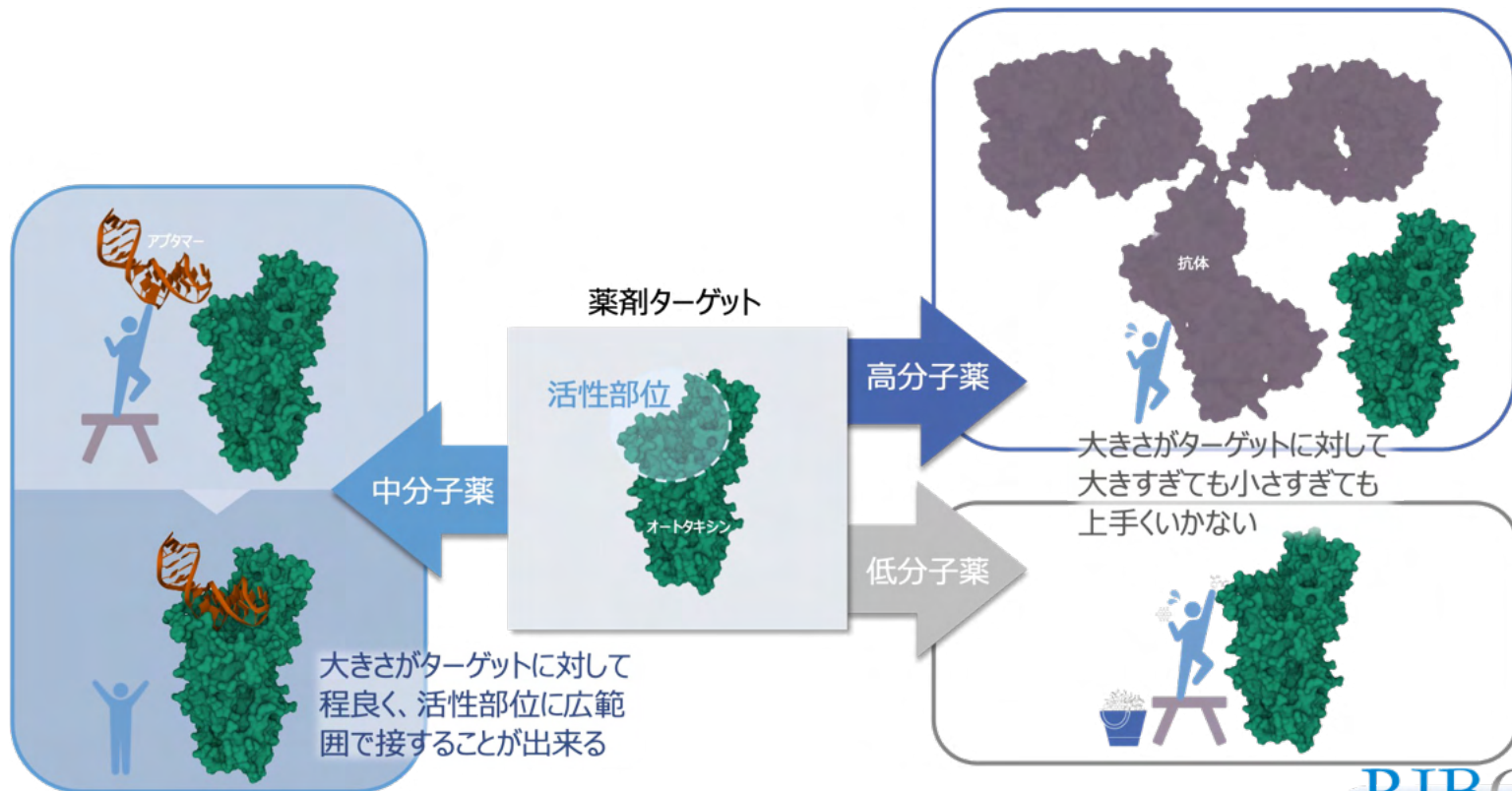
アプタマーと他の薬の大きさの違い



分子の大きさイメージ

中分子薬の利点:

オートタキシン(線維症創薬ターゲット)に対するアプタマーの事例



その他、アプタマーの主な特徴

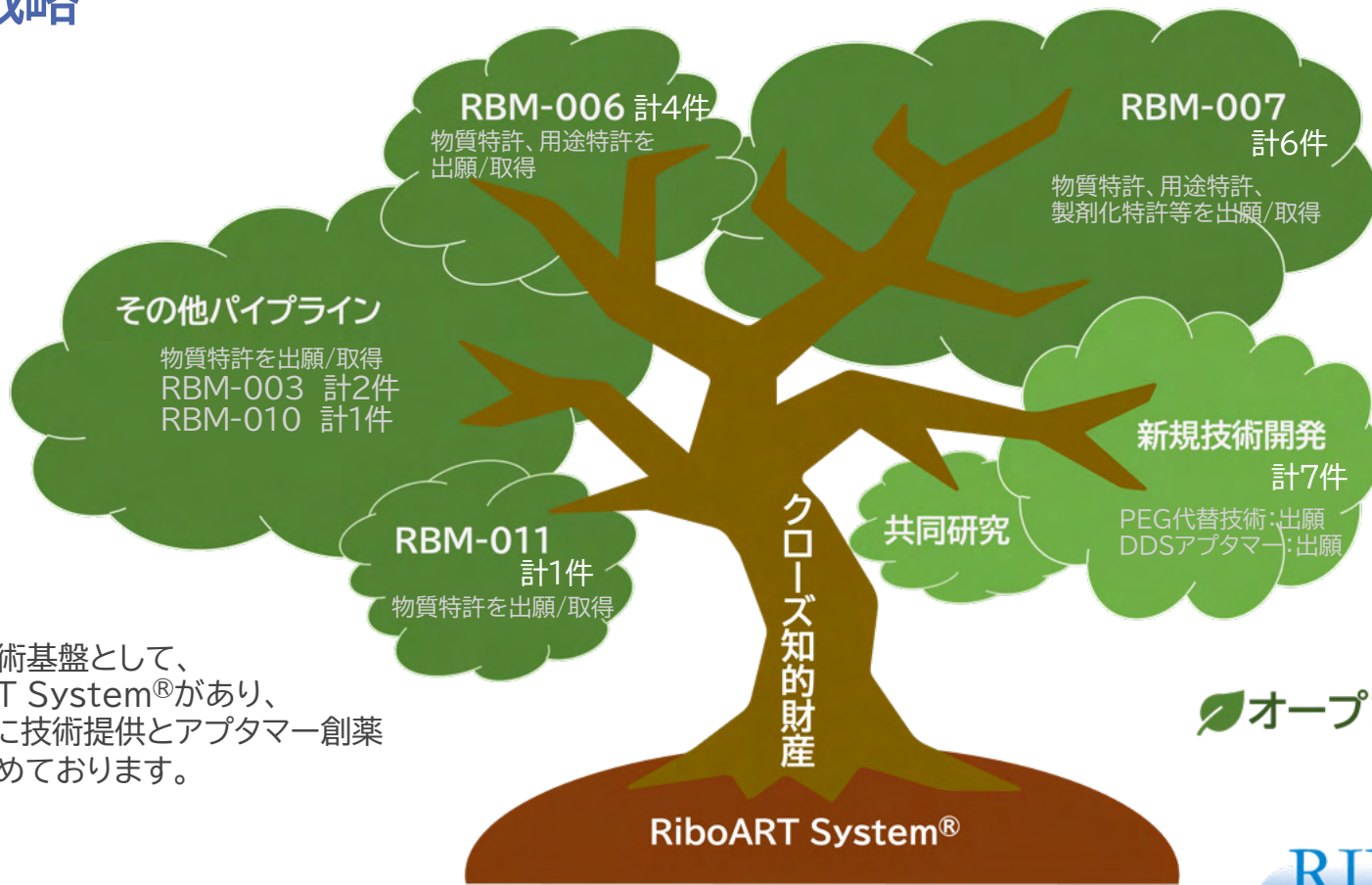


選択性・特異性が極めて高い



活性・結合力が極めて高い

知財戦略



当社の技術基盤として、RiboART System®があり、これを基に技術提供とアプタマー創薬開発を進めております。

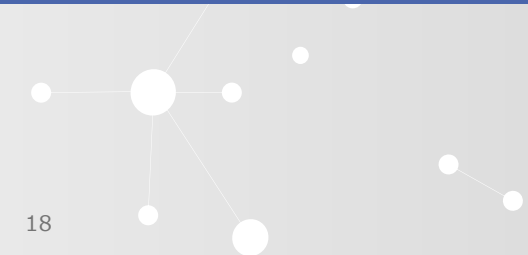
オープン知的財産

目次

- 会社概要とアプタマー
- 事業内容と成長戦略
- 財務概要
- その他

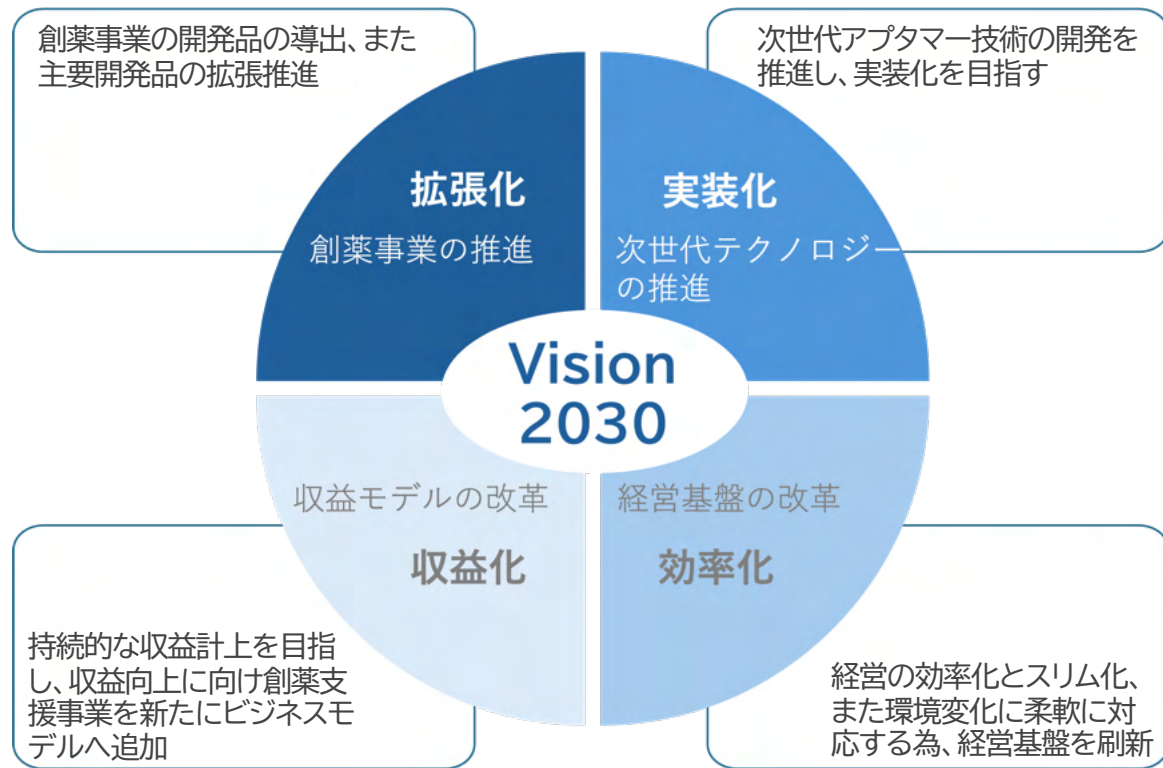


Vision 2030



Vision 2030

～持続的に事業収益を計上できる創薬企業へ進化～



事業モデル

創薬支援事業

自社が開発した創薬プラットフォーム技術(例えばDDSシステム)を利用して、製薬企業や研究機関等から提示される研究開発課題や標的分子に対して創薬を支援することで、提携先から支払われる研究費あるいはプラットフォーム技術の導出によるライセンス対価を収入とする事業

創薬事業

自社で医薬候補となるアプタマーを開発し、その成果を製薬企業にライセンス・アウトし、ライセンス対価(契約締結時に受け取る契約一時金、開発進行に伴うマイルストーン収入、及び製品上市後の売上に応じたロイヤリティー)を得る事業



事業の差別化と収益構造



創薬事業

自社開発

アプタマーを用いた疾患
に対する創薬開発

自社で開発したアプタマーを用いた
疾患に対する新規医薬品候補を
製薬企業へ導出

医薬品候補の導出のため **高価**

(契約一時金、マイルストーン、ロイヤリティ)



目的

ビジネス モデル

収益 モデル



創薬支援事業

受託事業

アプタマーを用いた
技術の提供

企業や研究施設等からの要望を元に
アプタマーやアプタマー-DDS等の
技術の提供

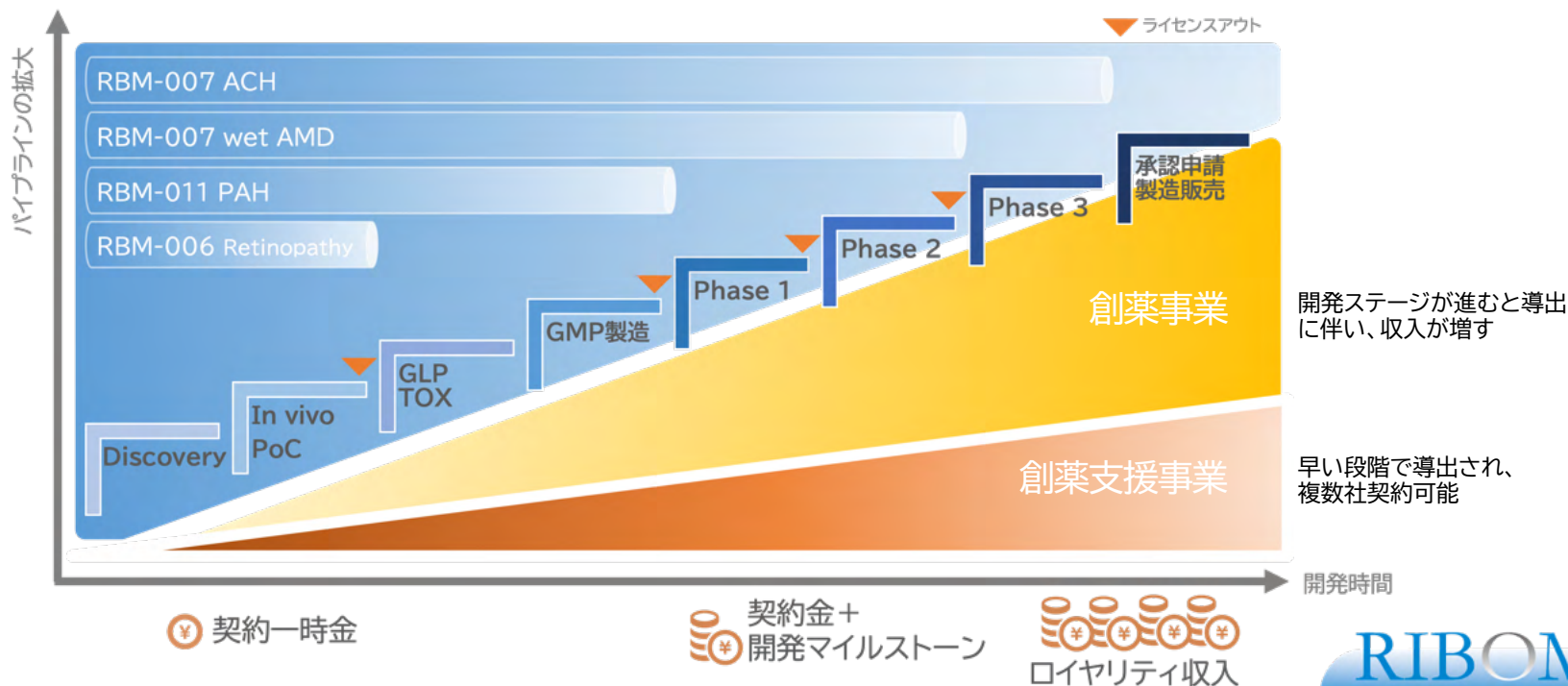
基礎研究からの技術提供のため **安価**

(契約一時金が主体になるが、企業の契約数を
増やす等で**持続可能な収益**を得られる)

x N

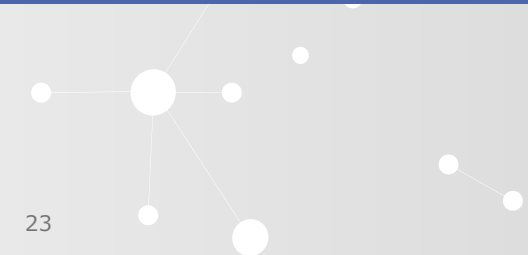
各事業の進歩と企業価値

2030年までに創薬支援事業による安定的な収益確保と創薬事業のライセンス・アウトにより、企業価値拡大





事業内容



当社の重点領域

アプタマーというModalityが適した疾患

眼科(網膜疾患)

wet AMD, PVR, …

- 閉鎖系器官であるため安全性が高い
- 硝子体内投与であるため少量の薬剤用量

RIBOMIC

Unmet Medical Needs

希少疾患

ACH

- 大手製薬企業が研究開発をしないニッチ市場のため、先端技術を用いた創薬開発に向いている

主要なパイプライン

(updated on May 18, 2026)

化合物コード	ターゲット	疾患	探索	前臨床	臨床		
					1	2	3
RBM-007	FGF2	軟骨無形成症 (ACH)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
RBM-007	FGF2	滲出型加齢黄斑変性 (wet AMD)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
RBM-007	FGF2	糖尿病黄斑浮腫 (DME)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
RBM-006	Autotaxin	網膜疾患 増殖性硝子体網膜症(PVR)、緑内障、糖尿病網膜症等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
RBM-011	IL-21	肺動脈性肺高血圧症 (PAH)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

前回開示からの変更点:

- 1) 適応拡大の結果により、DMEの疾患の追加
- 2) 開発優先順位の変更により、wet AMDとACHは進捗順に変更

 臨床POCの獲得を示す。



RBM-007 (umedaptanib pegol) 軟骨無形成症を対象とした臨床試験

日本における希少疾病用医薬品指定 軟骨無形成症治療薬候補 RBM-007(umedaptanib pegol)

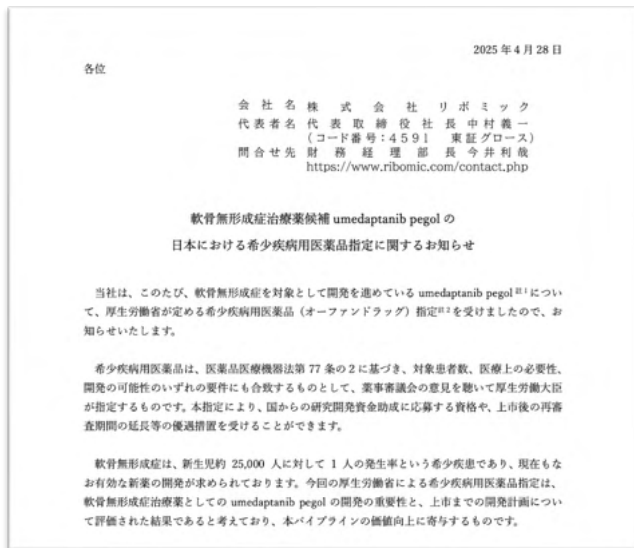
2025年4月25日付、軟骨無形成症を対象としたRBM-007
(umedaptanib pegol)が厚生労働省の希少疾病用医薬品指定を
受けました。

希少疾病用医薬品指定制度:

医療上の必要性が高いにもかかわらず、患者数が少ないために、本邦では十分にその研究開発が進んでいない状況にある開発品において安全かつ良質な医薬品を一日も早く医療の現場に提供する特別の支援措置として制定された制度

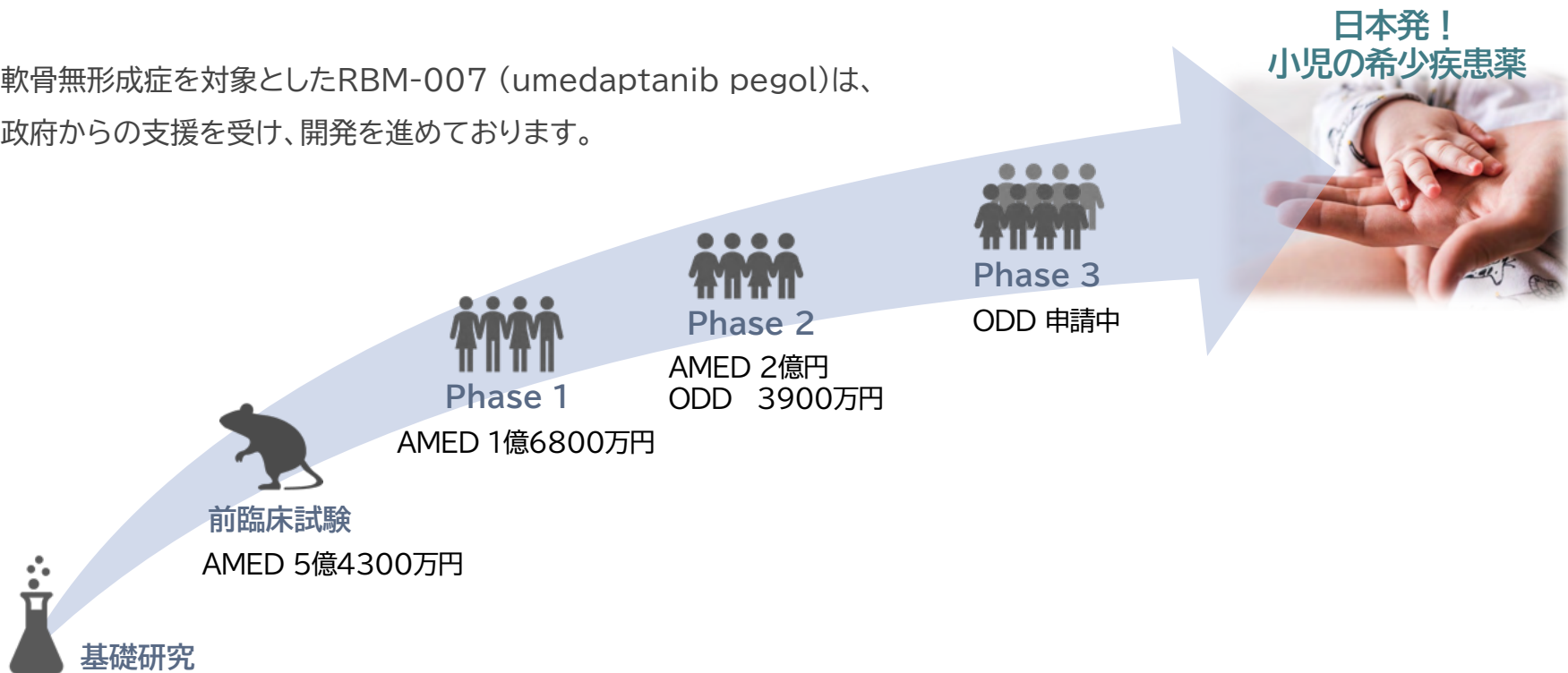
支援措置:

- (1) 医薬基盤・健康・栄養研究所(医薬基盤研)を通じて助成金の交付を受けることができる。
 - ・助成金交付期間 指定後～製造販売承認申請までの原則、最大三年間
 - ・助成金交付限度額 予算の範囲内で、試験研究費の1/2相当額まで
→この制度を用い、昨年度は助成金3900万円受理。
- (2) 厚生労働省、PMDA及び医薬基盤研による指導・助言を受けることができる。また通常品目に比べて治験相談の手数料が減額される。
- (3) 医薬基盤研の助成金の交付対象期間に行う試験研究に係る費用のうちODDに係る試験研究費総額の20%を税額控除額として算定できる。
- (4) 承認審査に係る手数料の減額がある。
- (5) 再審査期間の延長: 指定され承認された医薬品は再審査期間が10年間付与される。



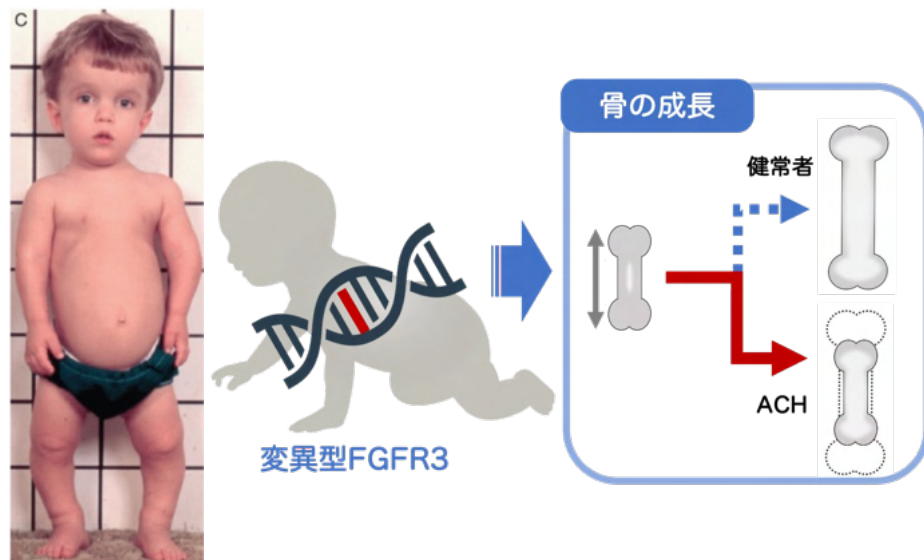
日本発・小児の希少疾患薬を目指して

軟骨無形成症を対象としたRBM-007 (umedaptanib pegol)は、政府からの支援を受け、開発を進めております。



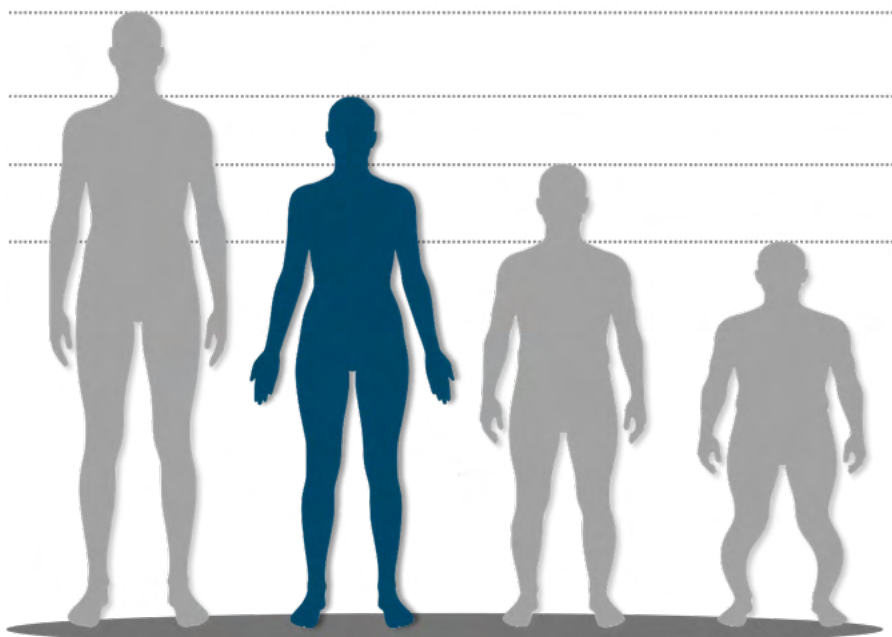
軟骨無形成症(ACH, Achondroplasia)

- **軟骨無形成症(ACH)とは**
手や足の短縮を伴う低身長となる希少疾患です。
有効な治療薬が存在しません。
- **軟骨無形成症(ACH)の原因**
FGFタンパク質に対する受容体FGFR3におきた突然変異です。
変異したFGFR3によって、骨の成長に必要な軟骨組織(成長板)の形成に過剰なブレーキがかかり、骨の成長が妨げられます。



*Horton et al. Lancet 2007; 370: 162-72

FGFR3変異による身長の変化



CATSHL syndrome

Normal

HCH
Hypochondroplasia

ACH
Achondroplasia

	身長	FGFR3 機能	FGFR3 変異
CATSHL syndrome	≒200cm (男女とも高身長)	欠失	null
Normal	男 176cm 女 163cm	正常	WT
HCH	男 150cm 女 140cm	増強	N540K
ACH	男 130cm 女 124cm	増強	G380R

*Am J Hum Genet. Nov;79(5):935-41.2006, Hypochondroplasia.GeneReviews® NIH, Cleveland Clinic等を元に弊社で作成

RBM-007 (umedaptanib pegol) : 抗 FGF2 アプタマー

多角的修飾加工によって血中滞留性と結合力を実現
($t_{1/2} > 24$ hrs and K_D 2 pM)



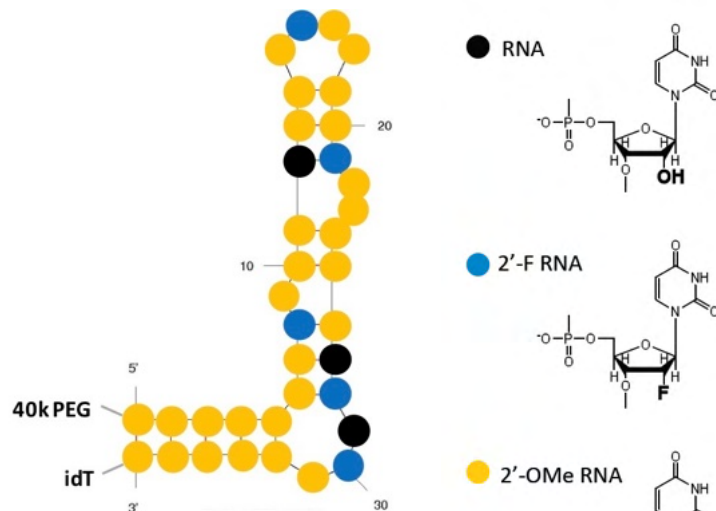
FGF2の特異的認識



FGF2・受容体結合の阻害



MAPK/ERKシグナル伝達阻害



Molecular mass (Da)

Oligo 12,437

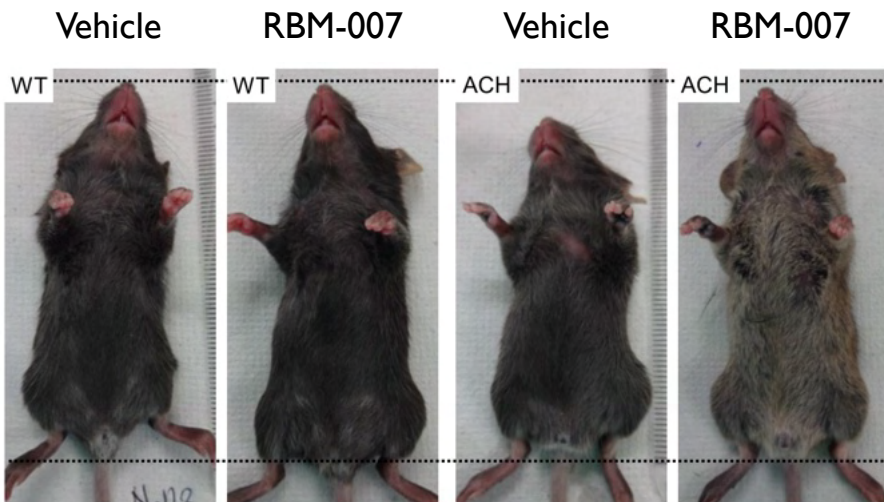
PEG 40,000

APT-F2P 52,437

*Mol. Ther. 24:1974-1986 (2016)

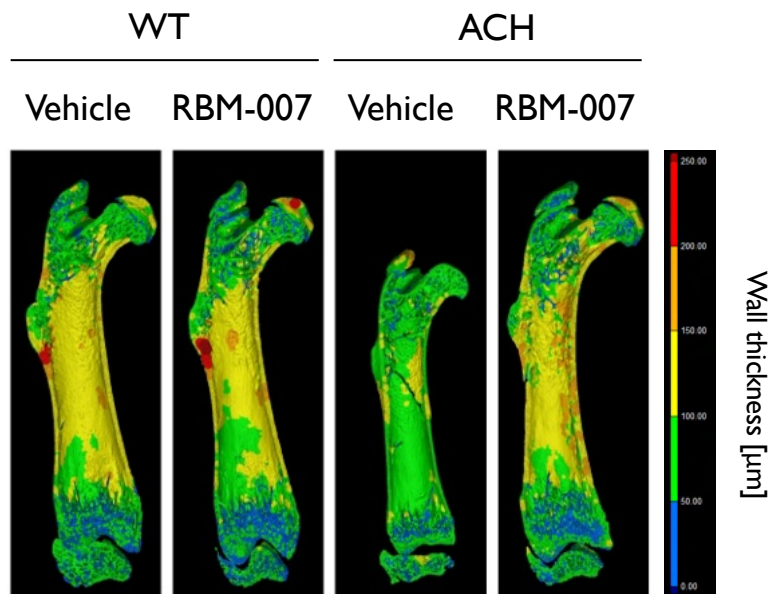
RIBOMIC

RBM-007投与によるACHモデルマウスの骨伸長の回復



野生型(WT)マウスおよびACHマウスをRBM-007または溶媒で18日間処理した際の全体的な外観。

ACHトランスジェニックマウス(G380Rアレル)は、David Ornitz博士(ワシントン大学)より提供された凍結精子から復元された。



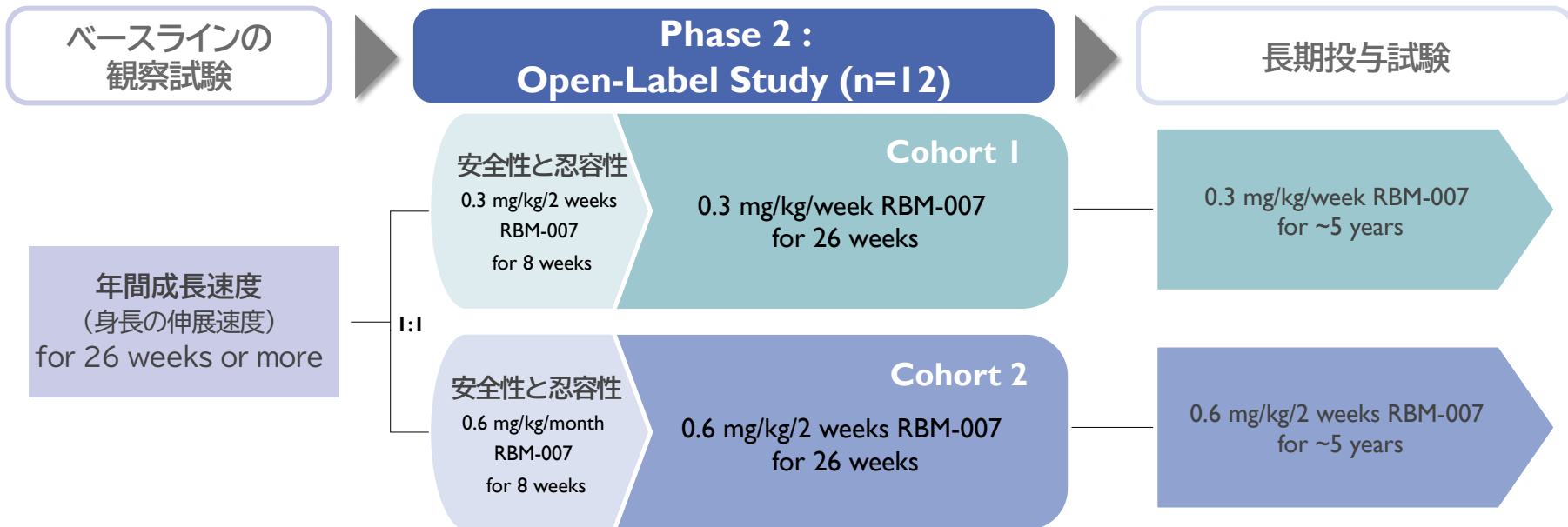
大腿骨の3DマイクロCT画像;長軸方向の冠状断面。RBM-007投与ACHマウスでは骨幹部の骨厚が増加し、野生型(WT)と同等レベルに達している。

*Sci Transl Med. 2021 May 5;13(592):eaba4226. doi: 10.1126/scitranslmed.aba4226.

臨床試験の概要

	Phase 1	Phase 2
試験デザイン	<ul style="list-style-type: none">用量漸増単回皮下投与(0.1~1 mg/kg)用量漸増2回皮下投与(0.1~0.6 mg/kg)	<ul style="list-style-type: none">観察試験：投与前、身長伸び率測定0.3 mg/kg毎週皮下投与26週間(Cohort 1)0.6 mg/kg隔週皮下投与26週間(Cohort 2)
被験者	24名：健康成人男性	12名：5~14才 小児ACH患者
試験期間	2020年7月~2021年5月	2022年6月~2026年3月
試験実施施設	国内、1施設	国内、8施設
評価項目	安全性、忍容性および薬物動態	有効性：投与前後の成長の伸展速度 安全性、忍容性および薬物動態

Phase 2 臨床試験デザイン



主な選択基準

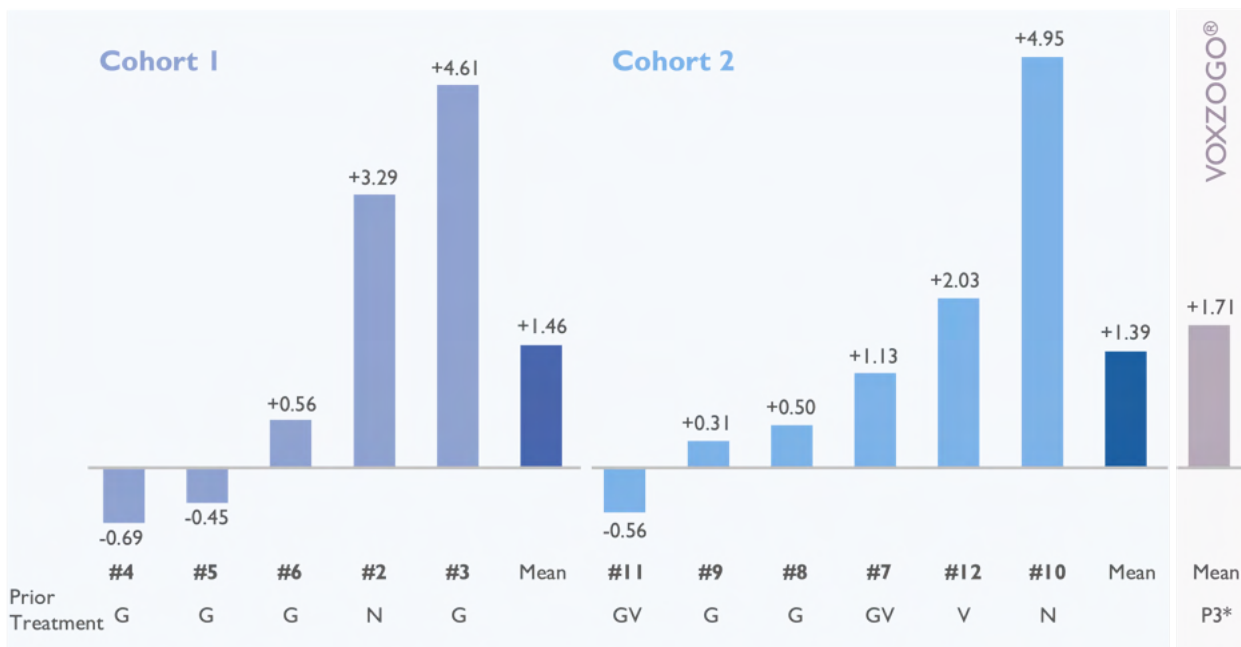
- 治験開始時の年齢が5~14歳の患者
- 遺伝子診断により軟骨無形成症と診断されている患者

主要評価項目

- 26週間(6カ月間)の身長伸展速度 (AHV, Annualized Height Velocity)の
変化

Phase 2 Cohort 1 / Cohort 2 の結果 と VOXZOGO®との比較

ベースラインからの年間身長伸展速度(AHV)の変化 (cm/year)



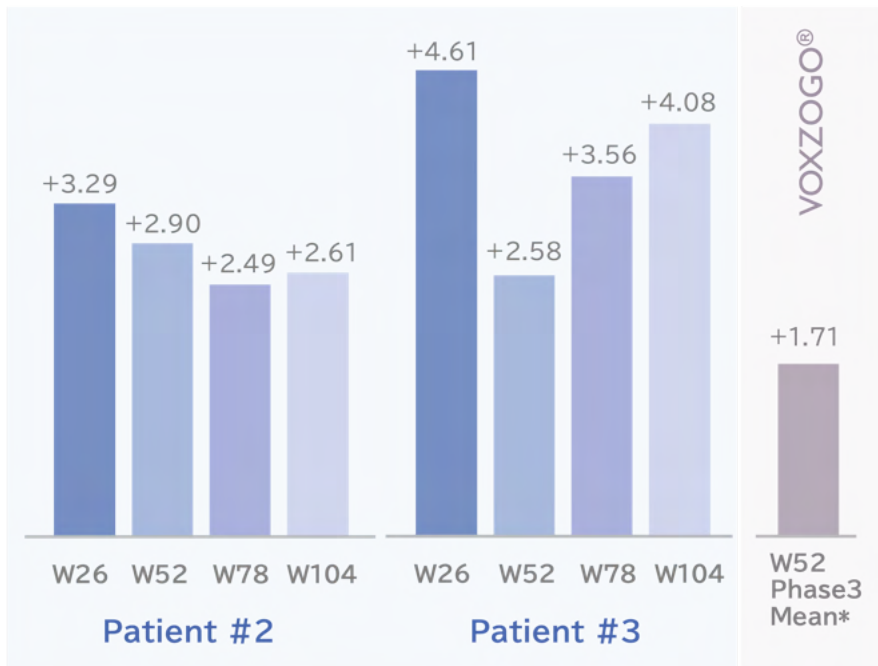
N:Untreated , G:Growth hormone , V:VOXZOGO®, GV: Growth hormone→VOXZOGO®

- レスポンダーの変化は、承認薬 VOXZOGO®の平均変化量よりも大きい
- Cohort 1および2における平均変化量は、第3相試験における VOXZOGO®と同等
- Cohort 2の方がレスポンダーの割合が高い
- VOXZOGO®投与歴患者でも改善が観察される(2/3例)
- 安全性の懸念はない

* BioMarin VOXZOGO® Phase 3 (NCT03197766) , <https://clinicaltrials.gov/study/NCT03197766?tab=results>

RBM-007(Umedaptanib Pegol)の長期投与試験における持続的有効性

ベースラインからの年間身長伸展速度(AHV)の変化 (cm/year)

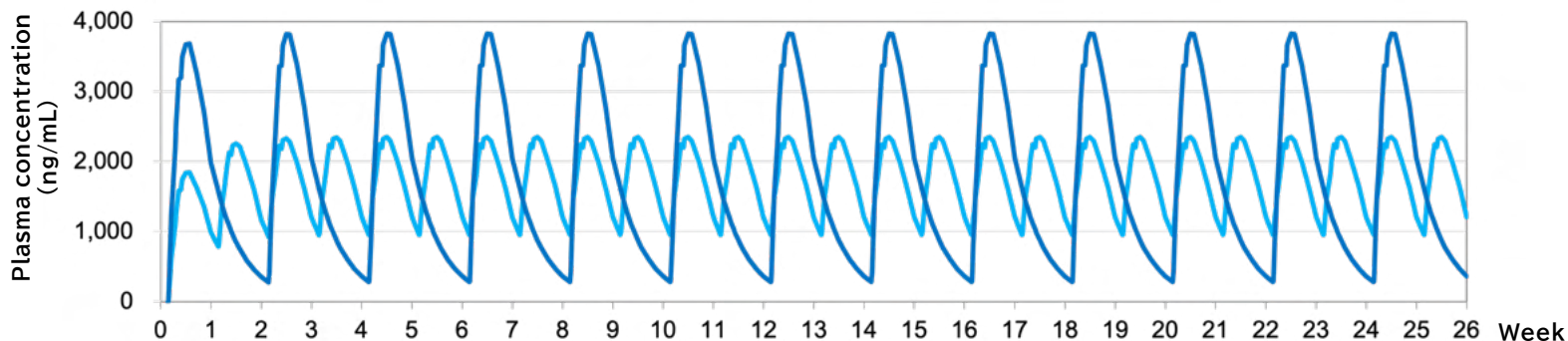


1年以上の長期試験により、Cohort 1 レスポンダー2名の年間成長率は、VOXZOGO®の平均身長成長率を上回り続けた。

* BioMarin VOXZOGO® Phase 3 (NCT03197766) ,
<https://clinicaltrials.gov/study/NCT03197766?tab=results>

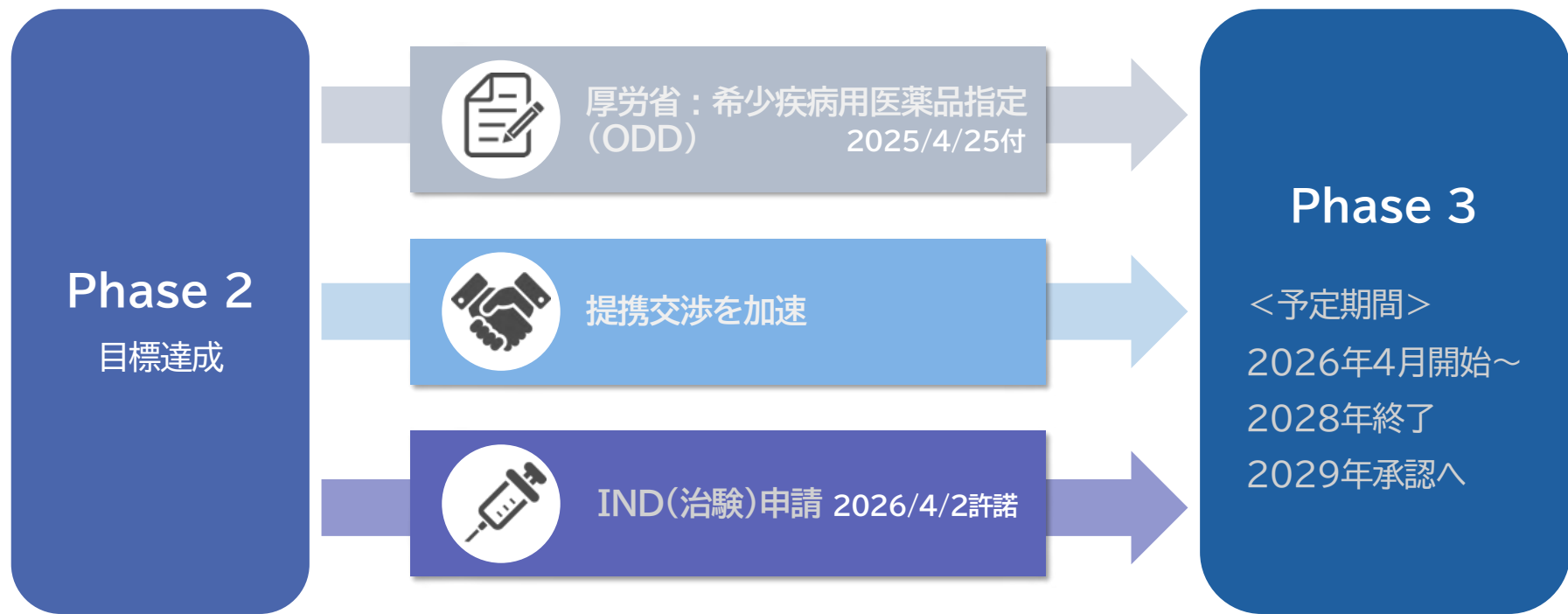
Phase 2 試験の PK シミュレーション

- Phase 1 試験 24症例の投与における薬物濃度データを用いてPhase 2試験データのシミュレーションを実施
- 投与開始より概ね4週間で C_{max} 、AUCが定常状態に達する

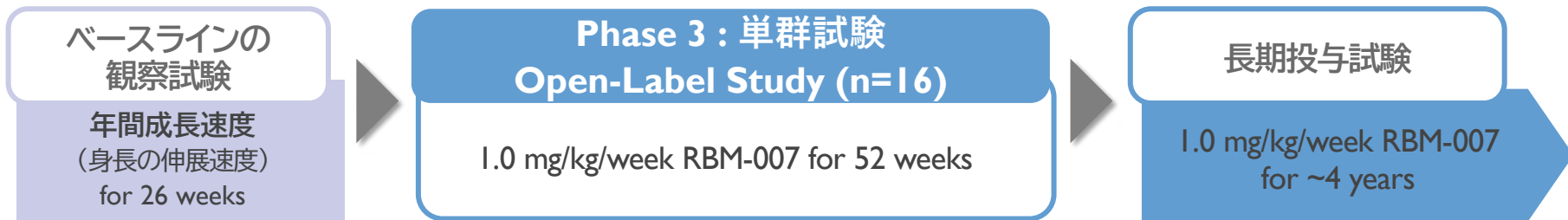


	成長速度増加率 (AHV)	定常状態の C_{max} (ng/mL)	定常状態の $AUC_{0\sim 336\text{ h}}$ (ng·h/mL)
Cohort 1(0.3mg/kg,w)	+1.5cm/y	2,349	592,989
Cohort 2(0.6mg/kg,biw)	+1.4cm/y	3,822	592,810
結論		C_{max} はAHVに寄与しない	AUCがAHVに寄与する

今後の方針



Phase 3 臨床試験デザイン



主な選択基準

- ・ 治験開始時の年齢が2~14歳の患者
- ・ 遺伝子診断により軟骨無形成症と診断されている患者

主要評価項目

- ・ ベースラインからの年間身長伸展速度の変化量

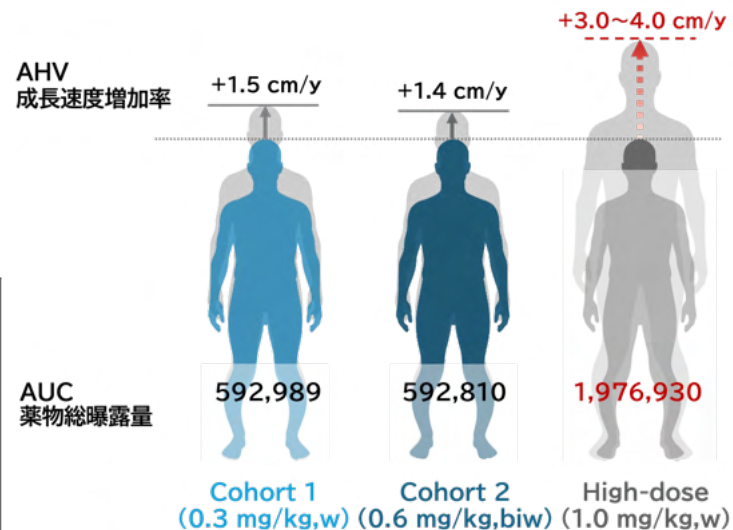
*試験実施施設:国内、16施設を予定

高用量 (1mg/kg) 投与の PK シミュレーションと年間成長率の予測

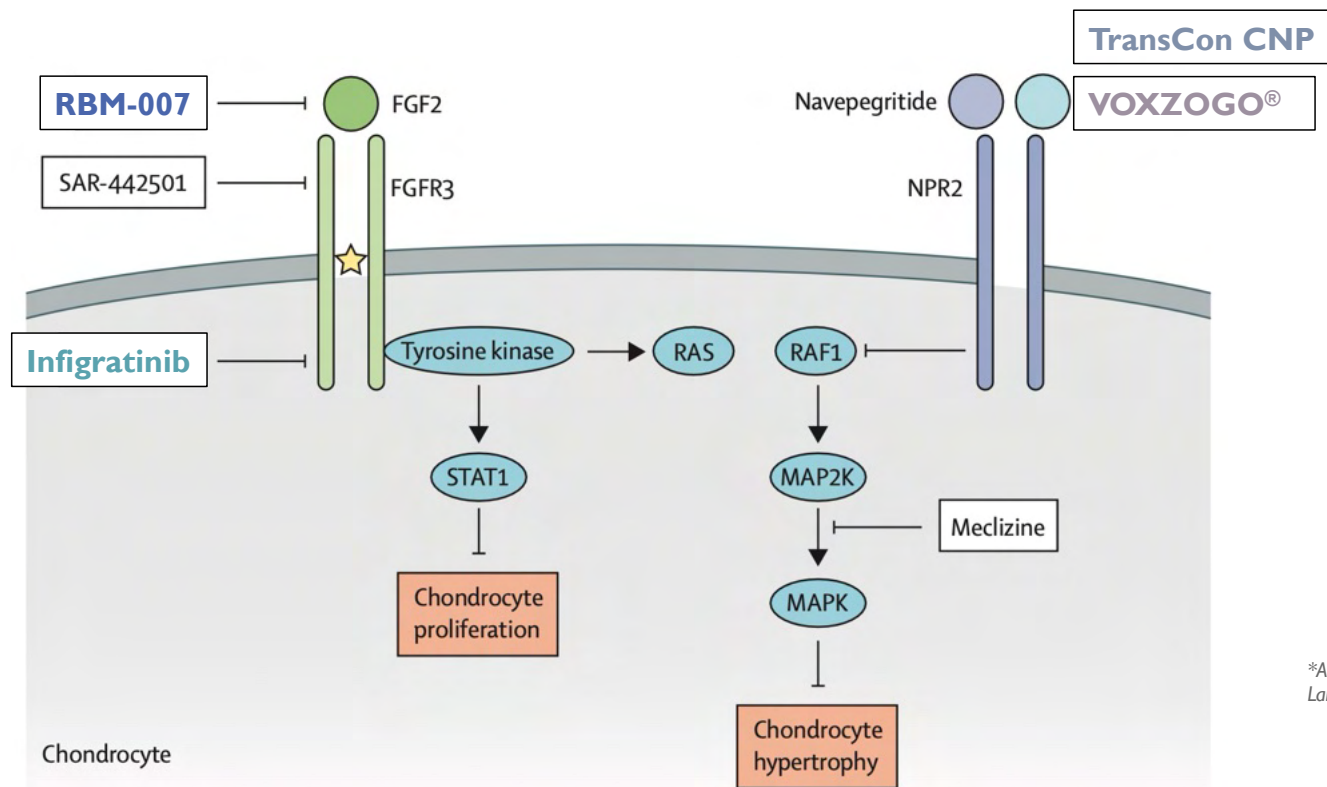
Best in Class の薬を目指して

- Phase 1 試験 24症例の投与における薬物濃度データを用いて Phase 2 試験データのシミュレーションを実施
 - 投与開始より概ね4週間で C_{max} 、AUC(薬物総曝露量)が定常状態に達する
- 上記PK シミュレーションを元に高用量(1.0mg/kg,w)における年間成長率の予測を実施

	Growth Rate Increase (AHV)	Steady-state C_{max} (ng/mL)	Steady-state $AUC_{0\sim336\text{h}}$ (ng·h/mL)
Cohort 1(0.3mg/kg,w)	+1.5 cm/y	2,349	592,989
Cohort 2(0.6mg/kg,biw)	+1.4 cm/y	3,822	592,810
High-dose (1.0mg/kg,w)	>+3.0~4.0 cm/y	7,831	1,976,930







ACH治療薬の作用機序



*Adopted from:
Lancet Child Adolesc Health 2024; 8: 301–10

他社開発品との比較

プロフィール	umedaptanib pegol	VOXZOGO®	Infigratinib	YUVIWEL® (TransCon CNP)
開発企業	RIBOMIC Inc.(Tokyo) 	BioMarin Pharmaceutical Inc. (CA) 	BridgeBio Pharma, Inc.(CA) 	Ascendis Pharma A/S (Denmark) 
医薬品	RNAアプタマー	CNPアナログ	低分子	徐放性CNP
作用機序	FGF2阻害(直接的)	MAPKシグナル阻害(間接的)	FGFR1-3チロシンキナーゼ阻害 (直接的)	MAPKシグナル阻害(間接的)
開発ステージ	Phase III 開始	上市(2022年)	Phase III 終了	FDA 承認(2026年2月)
投与方法	皮下投与(1回/週)	皮下投与(1回/日)	経口投与(1回/日)	皮下投与(1回/週)
身長伸展効果	> +2.0 cm/year (Phase 3 予測値)	+1.7 cm/year (Launched*1)	+1.7 cm/year (Phase 3 *2)	+1.5 cm/year (Phase 3 *3)

*1 BioMarin VOXZOGO® Phase 3 (NCT03197766) , <https://clinicaltrials.gov/study/NCT03197766?tab=results>

*2 https://s205.q4cdn.com/224494602/files/doc.events/2026/Feb/12/Infigratinib-PROPEL3-Topline-results_Feb-2026-FINAL-FINAL.pdf

*3 <https://investors.ascendispharma.com/static-files/ac6e8fb8-8ab9-4c5c-b25c-14a90f766b48>

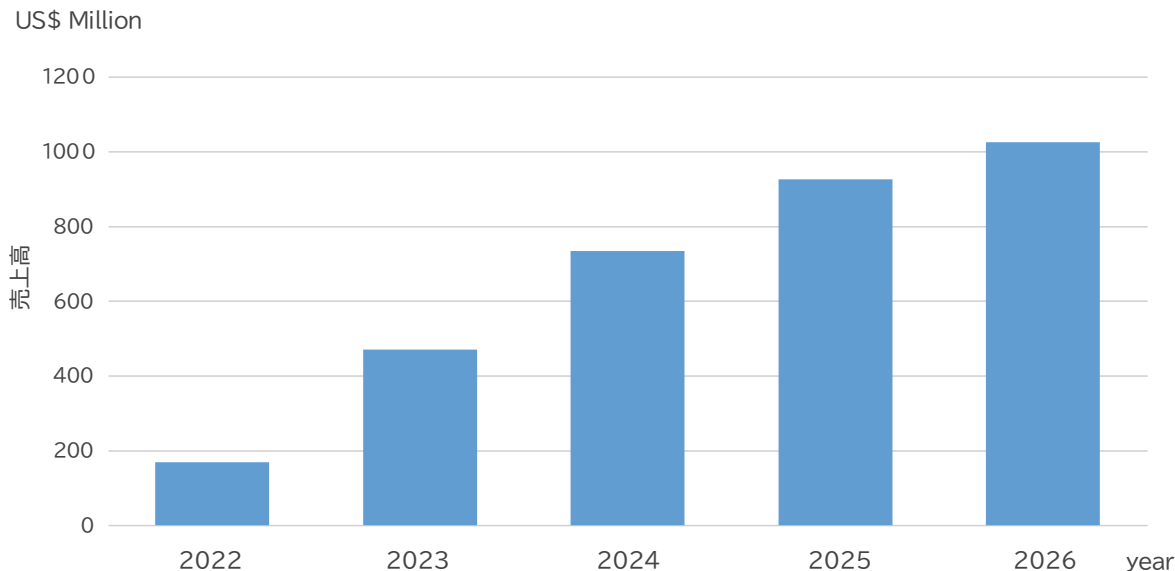
世界におけるVOXZOGO® (ACH治療薬)の市場*1



VOXZOGO®
(vosoritide) for injection

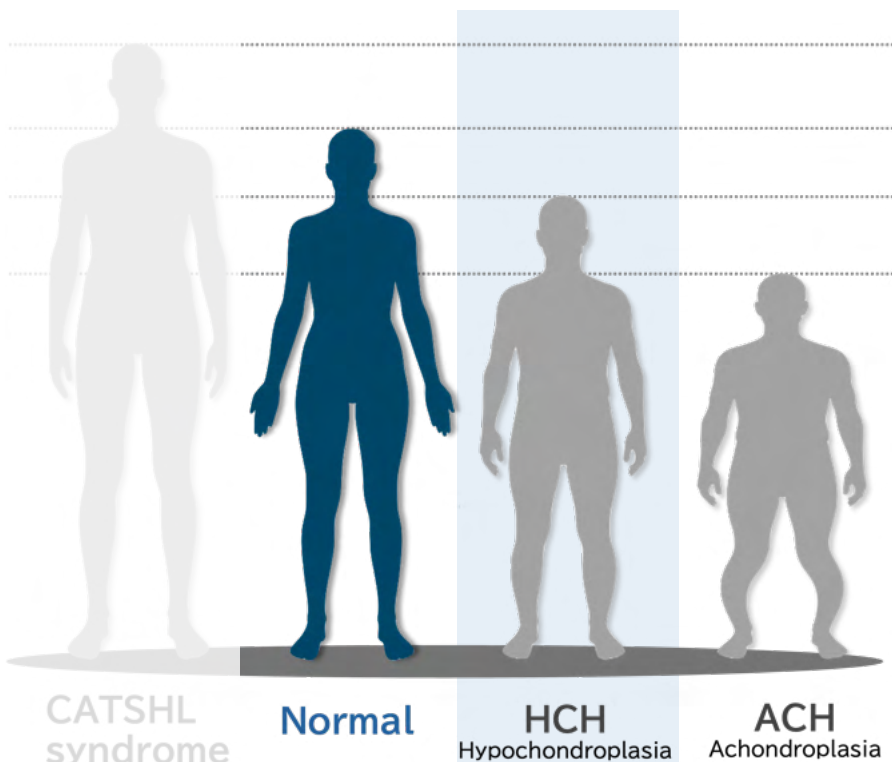
2022年上市
開発販売: BioMarin社

世界50カ国以上で5,000人以上の
乳幼児および小児の患者さんが
VOXZOGO®の治療を受けている*2

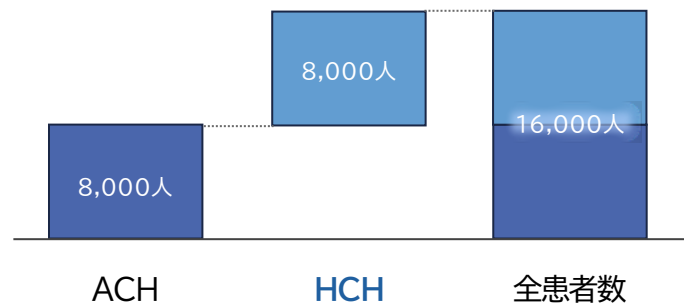


*1 BioMarin annual results (FY2022-FY2025) and company disclosures, *2 BioMarin Presents New Data on the Positive Impact of Early Treatment With VOXZOGO® (vosoritide) on Proportionality and Arm Span in Children with Achondroplasia at the 2026 American College of Medical Genetics and Genomics (ACMG) Annual Clinical Genetics Meetingを元に弊社で作成

ACH治療薬の適応拡大と市場規模拡大



● ACH治療薬が適応する患者数(米国と欧州)



● 軟骨低形成症(HCH, Hypochondroplasia)

軟骨無形成症(ACH)と同様に手や足の短縮を伴う低身長となる遺伝性疾患ですが、ACHより程度は軽度です。FGFR3遺伝子におきた突然変異ですが、ACHとは場所が異なり、大半はN540Kの変異です。発症頻度はACHと同様(1/15,000~40,000)です。根本的な治療はなく、有効な治療薬の開発が求められています。

*Cleveland Clinic. Hypochondroplasia, Michael B Bober, et al. Hypochondroplasia. GeneReviews Last Update September 2025., US Census.gov. The U.S. Adult and Under-Age-18 Populations: 2024 Census, Eurostat Database等を元に弊社で作成

今後のロードマップと収益戦略

● 日本へ導入された他社のディールサイズ

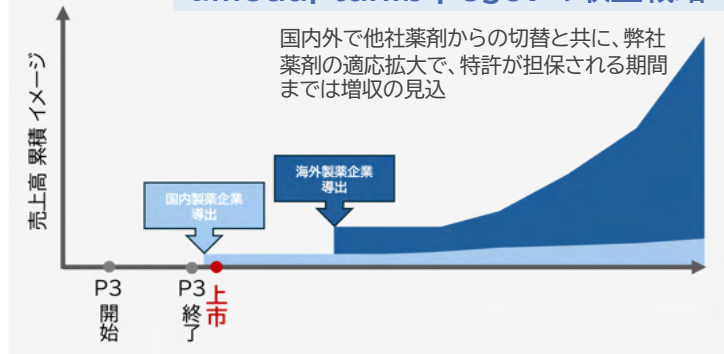
提携発表年月日	導出元	導出先	開発品	契約時フェーズ	総額 (million \$)	一時金 (million \$)
2023年11月29日	Ascendis pharma	帝人ファーマ	Navepegritide	Global Ph2b/3	245*	70*
2024年2月7日	BridgeBio Pharma	協和キリン	Infigratinib	Global Ph2完了	非公表	100

*TransCon-GH, TrasCon-PTH, TransCon-CNPの3剤での金額。また販売マイルストーン、ロイヤルティ等は含まない

● 今後のロードマップ



umedaptanib pegol の収益戦略



2026-28年 国内外製薬企業へ導出

2029年 上市

- ・ 導出へ向け、国内外製薬企業と交渉協議中
- ・ Phase 3を開始し、患者さんをリクルート中

*2026年5月末時点



アプタマー医薬に適した眼科領域

世界におけるアプタマー医薬品開発の動向

Aptamer	Target	Company	Indication	Stage	Notes
Pegaptanib (Macugen®)	VEGF-165	Eyetech/Pfizer	wet AMD ☀️	Launched	
avacincaptad pegol (IZERVAY™)	C5	Iveric Bio/Astellas	dry AMD ☀️	Launched	Astellas acquired for \$5.9B.
RBM-007 (umedaptanib pegol)	FGF2	RIBOMIC	wet AMD ☀️ Achondroplasia	P2 P3	
ApTOLL	TLR-4	aptaTargets	Cerebral ischemia	P2	
BC007 (rovunaptabin)	Autoantibodies against GPCRs	Berlin Cures	Dilated cardiomyopathy	P2	
NOX-A12 (olaptased pegol)	CXCL12 SDF-1	TME Pharma	Cancer (brain, colorectal, pancreatic)	P2	
AON-D21	C5a	Aptarion Biotech	Community-acquired pneumonia	P2	
DTRI-031 (BB-031)	VWF	Basking Biosciences	Cerebral ischemia	P2	
NOX-E36 (emapticap pegol)	MCP-1 CCR2	TME Pharma	Cancer	P1	
AM-003	T cells, Cancer cells	Aummune Therapeutics	Cancer	P1	
SJP-1604	Nucleolin	Samjin Pharmaceutical	Cancer Myelodysplastic syndrome	P1 P1	
AST-201	GPC3	Aptamer Sciences	Cancer	P1	
APTA-1	Thrombin	Aptahem	Sepsis	P1	



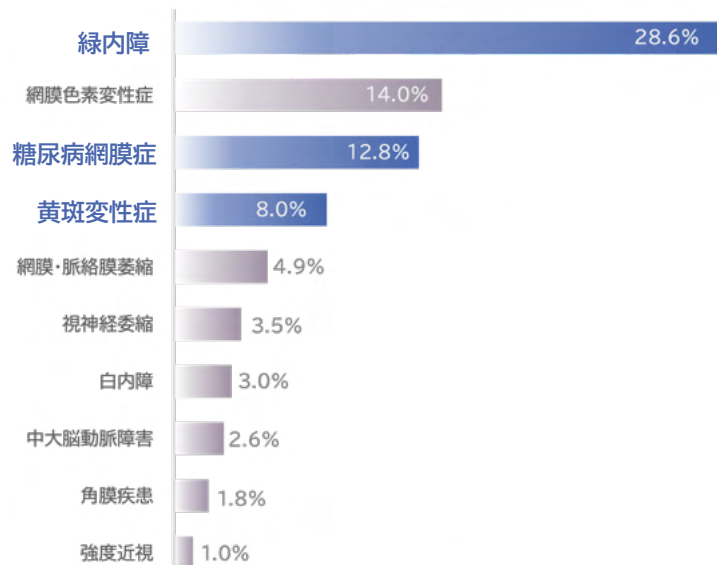
アプタマーは網膜疾患に適したModalityである

*Citeline Pharmaprojects, data as of May 22, 2025
より弊社作成

RIBOMIC

拡大する網膜疾患の市場

● 日本における視覚障害原因*1



● 全世界における加齢黄斑変性と緑内障の患者数*2



緑内障、糖尿病網膜症、黄斑変性は加齢が重要なリスク因子であり、世界的にも視力障害の患者数が加齢に伴い増加傾向

弊社パイプラインと網膜疾患

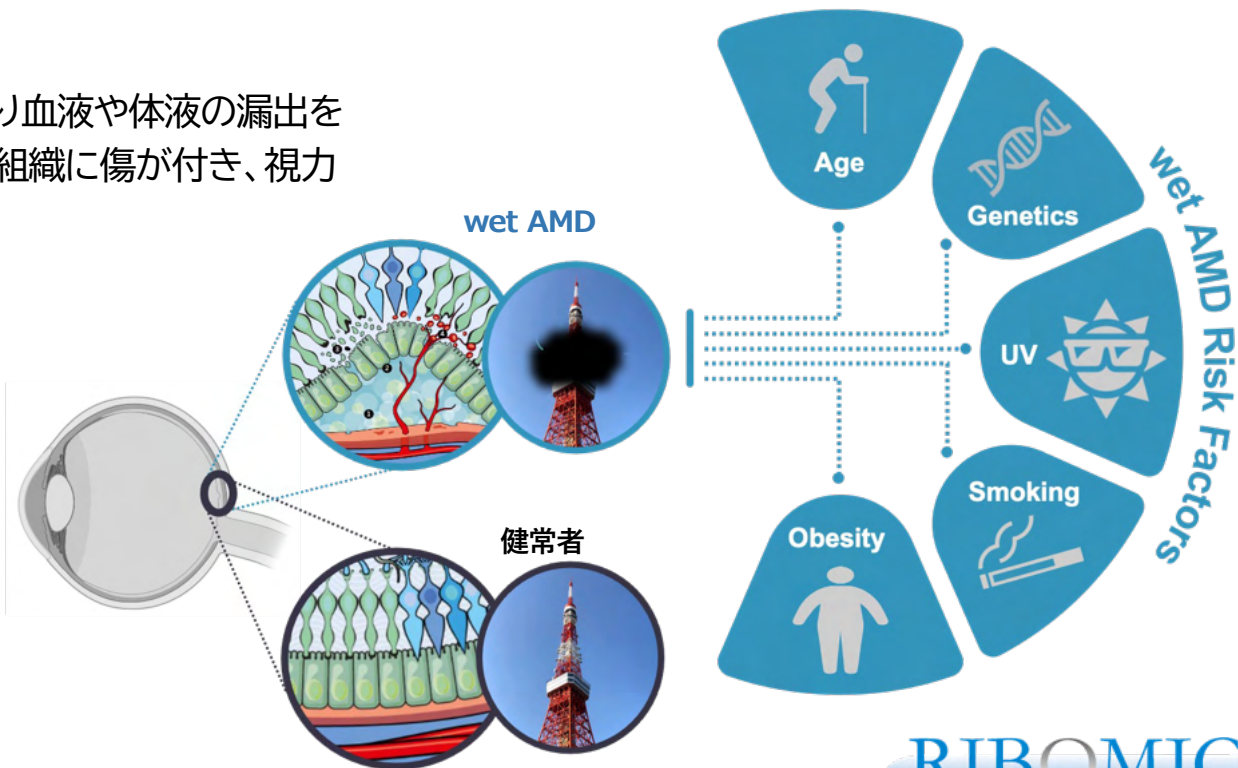
		眼科疾患で予測される作用機序			適応可能な網膜疾患
		血管新生抑制	線維化抑制	炎症抑制	
RBM-007 (抗FGF2 アプタマー)	血管新生、線維芽細胞増殖・遊走を誘導するFGF2阻害剤	○	○		wet AMD(P2終了) PDR、PVR
RBM-006 (抗Autotaxin アプタマー)	組織の線維化、マクロファージやグリアの活性化を誘導するリソホスファチジン酸の産生酵素Autotaxin阻害剤		○	○	PDR、PVR、 Glaucoma
RBM-011 (抗IL-21 アプタマー)	炎症性サイトカインであるIL-21阻害剤			○	Glaucoma
RBM-008 (抗Periostin アプタマー)	血管新生、組織の線維化を誘導するPeriostin阻害剤	○	○		wet AMD、PDR、 PVR



RBM-007 (umedaptanib pegol) wet AMDを対象とした臨床試験

滲出型加齢黄斑変性 (wet AMD)

- **滲出型加齢黄斑変性とは**
網膜の下に生じた新生血管により血液や体液の漏出を引き起こします。これにより黄斑組織に傷が付き、視力障害となります。
- **滲出型加齢黄斑変性の症状**
物が歪んで見えたり、視野の中心部が暗く欠けて見えたりします。さらに網膜での瘢痕形成が進むと失明の原因になります。



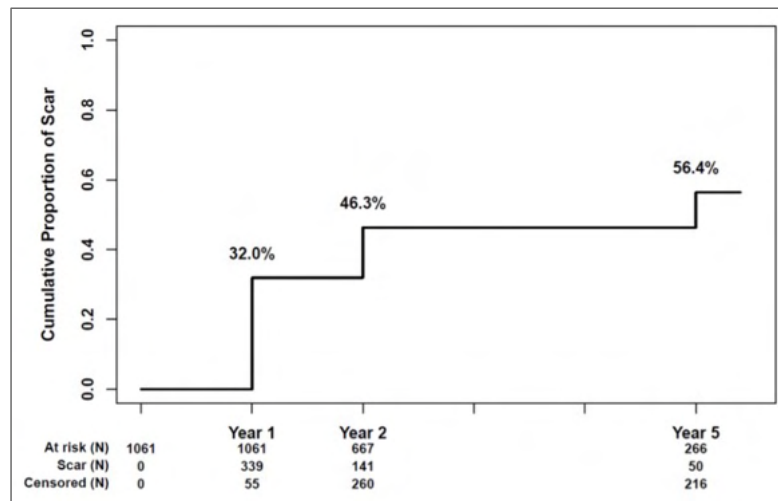
標準治療(抗VEGF薬)の Unmet Need

網膜の線維化(癥痕形成)リスク

- In the CATT trial, it has been reported that approx. **60% of the eyes treated with anti-VEGF develop fibrotic scars and majority of scars develop** within the first year of treatment.*1
- Additionally, it has been reported that about **25% of AMD patients respond poorly or not at all to anti-VEGFs**.*2
- Anatomical findings predictors of therapy failure include subfoveal fibrosis, scar formation or atrophy in retina.

*1. Daniel E, et al. Development and Course of Scars in the Comparison of Age-Related Macular Degeneration Treatments Trials. *Ophthalmology* 125(7):1037, 2018.

*2. Zuber-laskawiec et al. Non-responsiveness and tachyphylaxis to anti-vascular endothelial growth factor treatment in naive patients with exudative age-related macular degeneration: *JPP* 2 2019, 70, 5, 779-785



標準治療における問題点

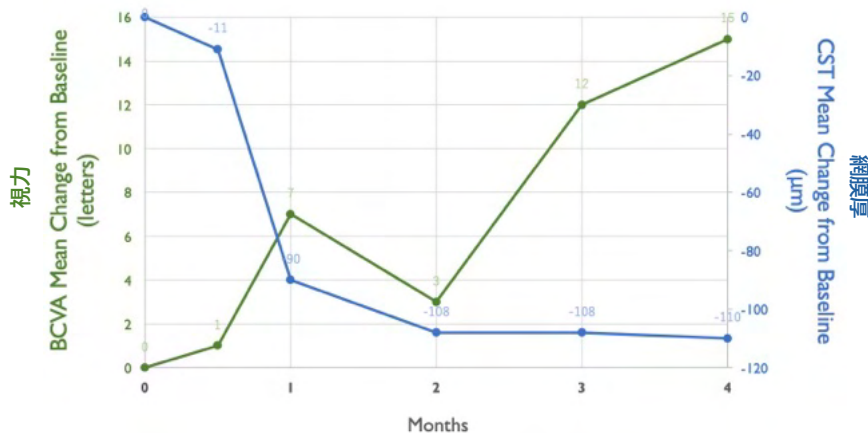
- 線維化(癥痕形成)発生を予防できない
- 1/4の患者に無効

臨床試験の概要

	Phase 1/2a SUSHI Study	Phase 2 TOFU Study	Phase 2 Extension RAMEN Study	Phase 2 IST TEMPURA Study
試験デザイン	単回硝子体内注射、3用量漸増	ランダム化二重盲検実薬(Eylea®)対照試験、毎月1回、4回硝子体内注射	毎月1回、4回硝子体内注射	毎月1回、3回硝子体内注射
被験者	抗VEGF薬で治療歴があり、完治しないwet AMD患者 9症例	抗VEGF薬で治療歴があり、完治しないwet AMD患者 86症例	TOFU Studyを完了したwet AMD患者 22症例	未治療のwet AMD患者 5症例
試験期間	2018年10月～2019年6月	2019年12月～2021年12月	2020年11月～2021年12月	2021年6月～2022年3月
試験実施施設	米国、4施設	米国、8施設	米国、8施設	米国、1施設
評価項目	<ul style="list-style-type: none"> 安全性および忍容性 (視力と網膜厚の変化) 	<ul style="list-style-type: none"> 安全性および忍容性 視力と網膜厚の変化 	<ul style="list-style-type: none"> 視力の変化 瘢痕化抑制効果 	視力と網膜厚の変化

RBM-007 の臨床 POC(Proof of Concept)確立

- ▷ 標準治療(抗VEGF薬)患者における病態進行の抑制
- ▷ 未治療患者において顕著な治療効果を確認



未治療患者において網膜の瘢痕(線維化)抑制が
確認できれば画期的な新薬になり得る



*Phase 1 Eye: <https://doi.org/10.1038/s41433-023-02849-6>
Phase 2 Eye: <https://doi.org/10.1038/s41433-023-02848-7>

今後の方針

wet AMDに対するP2までのデータ精査完了

- ✓ 米国にて、P2試験 完了
- ✓ 論文採択、臨床POC取得
- ✓ 未治療患者において顕著な視力回復

資金調達

- 提携パートナー候補との協議
- ライセンス・アウトあるいは共同開発契約の締結
- 機関投資家からの資金提供

Phase 2b/Phase 3試験 の実施を計画

未治療患者における

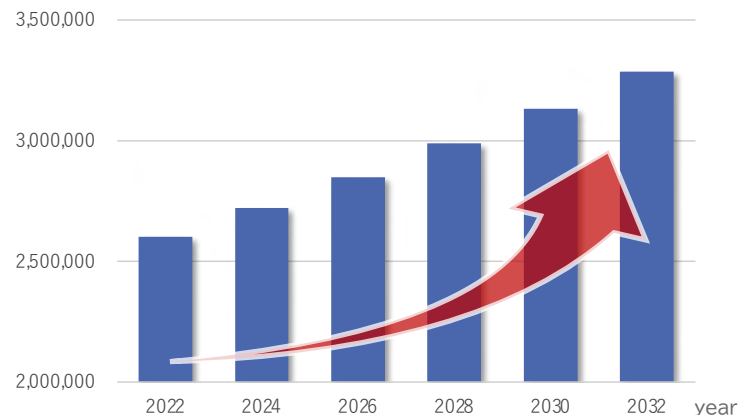
- 瘢痕化抑制
- 視力回復

瘢痕化抑制の機能を持つ

First-in-Classの新薬

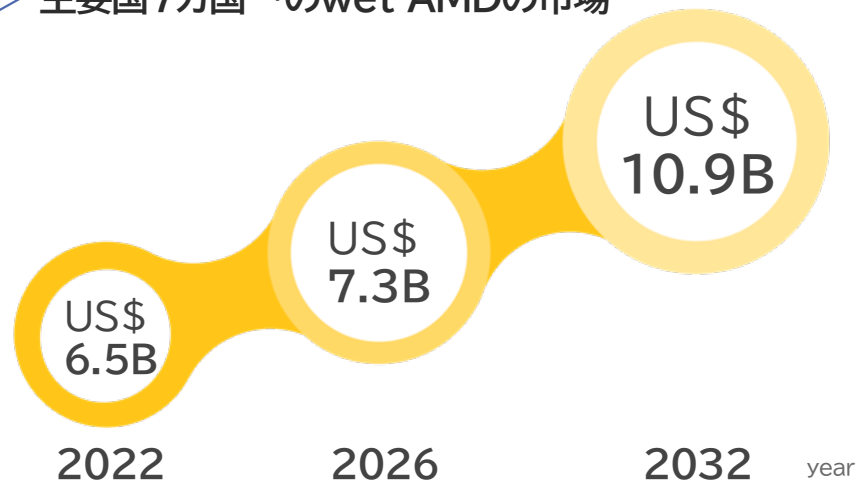
世界におけるwet AMDの市場

▷ 主要国7カ国*1のwet AMD患者数



- 患者の開拓や先進国の高齢化により、患者数の増加による市場の拡大

▷ 主要国7カ国*1のwet AMDの市場



- 予測されていたVEGF薬のpatent cliffによる市場の落ち込みは起きなかった
- 高用量化やバイスペシフィック化合物等が新しい市場を形成し、市場が拡大

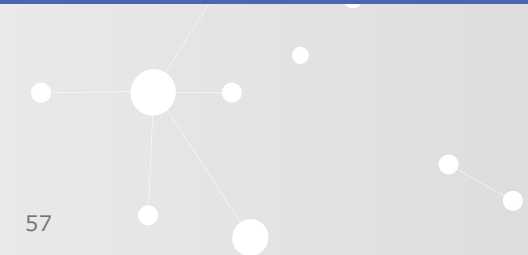
*1 日本、アメリカ、ドイツ、スペイン、イタリア、フランス、英国の患者数。

*2 Citeline Datamonitor Healthcare, data as of May 20, 2024 こちらのデータを用い、当社にて作成。



RBM-007 適応拡大

糖尿病黄斑浮腫（DME）に対する非臨床POCを確認



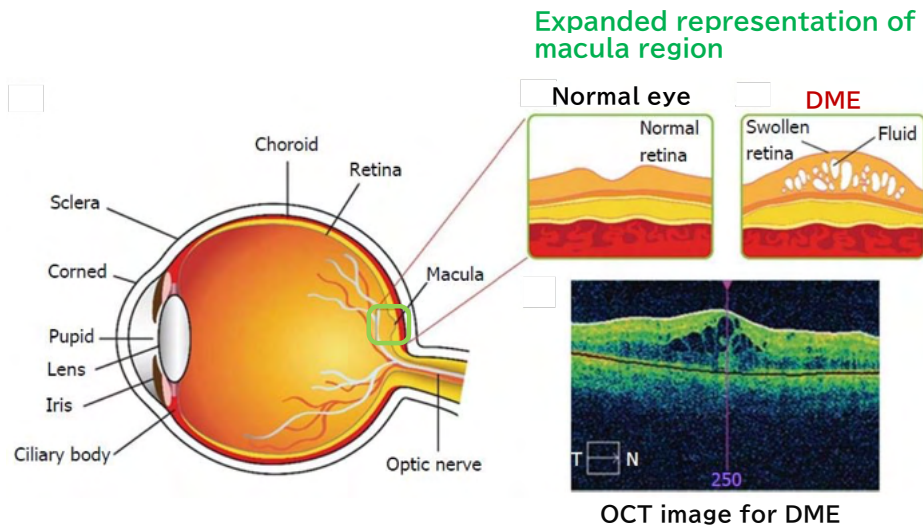
糖尿病黄斑浮腫(DME, Diabetic Macular Edema)

● 糖尿病黄斑浮腫とは

糖尿病網膜症に含まれ、変視症や視力低下の原因となる合併症です。糖尿病を起因とし、網膜における細小血管障害を生じ、網膜内の黄斑に体液が漏れ出すことで発症します。

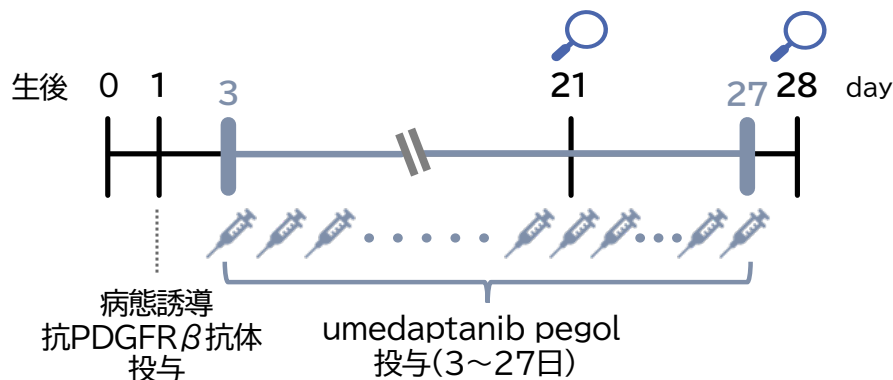
● 糖尿病黄斑浮腫の症状

糖尿病患者における視力障害の原因の一つですが、初期には自覚症状が出にくいです。視力低下や物が歪んで見えたり(変視)、視野の中心部が暗く欠けて見えたり等の症状が出た時には既に病状が進んでおります。



*糖尿病網膜症診療ガイドライン(第1版), *World J Pharmacol* 5(1): 1-14, 2016. 等を参考に弊社で作成

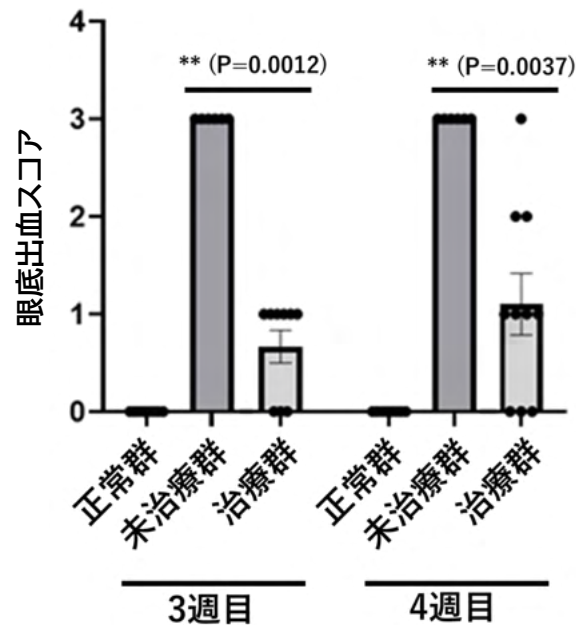
糖尿病網膜症モデルマウスにおける薬理試験



糖尿病網膜症モデルマウス



糖尿病網膜症では、網膜血管を取り巻くペリサイト(周皮細胞)の脱落がしばしば観察され、これが血液網膜関門の破綻や微小血管障害、眼底出血の原因となる。今回の抗PDGFR β 抗体を用いたマウス糖尿病網膜症モデルでは、網膜血管内皮を取り巻くペリサイトが脱落することにより、血液網膜関門の破綻と眼底出血を引き起こす病態が再現される。

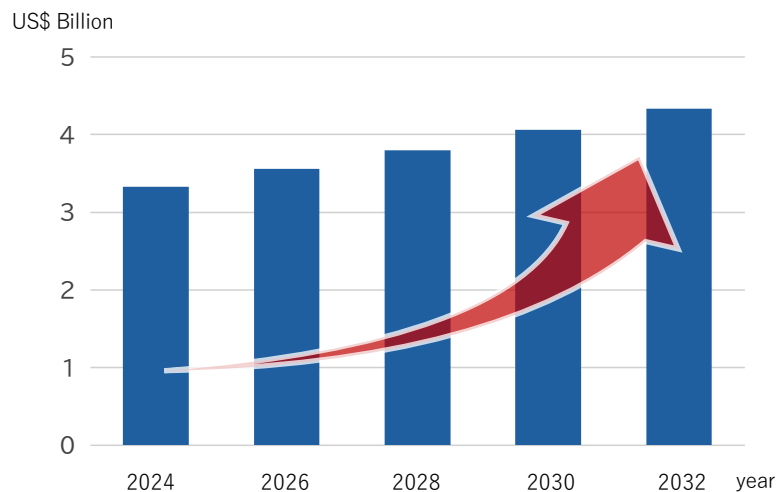


*2025年9月特許出願済

Umedaptanib pegolは糖尿病網膜症モデルマウスにおいて優れた薬理効果を示す

世界におけるDMEの市場

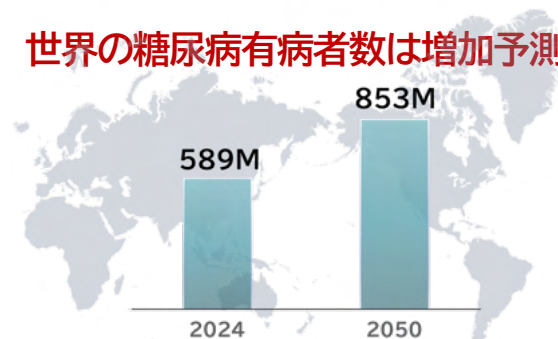
▷ 全世界でのDMEの市場規模*1



▷ 糖尿病患者の10人に1人がDMEを発症*2

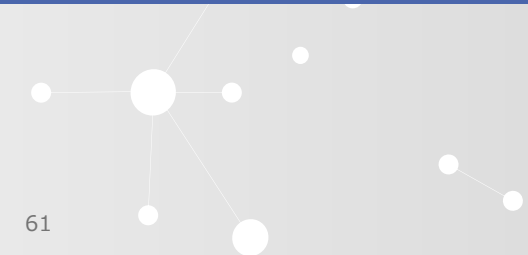


世界の糖尿病有病者数は増加予測





RBM-006 (抗Autotaxinアプタマー)



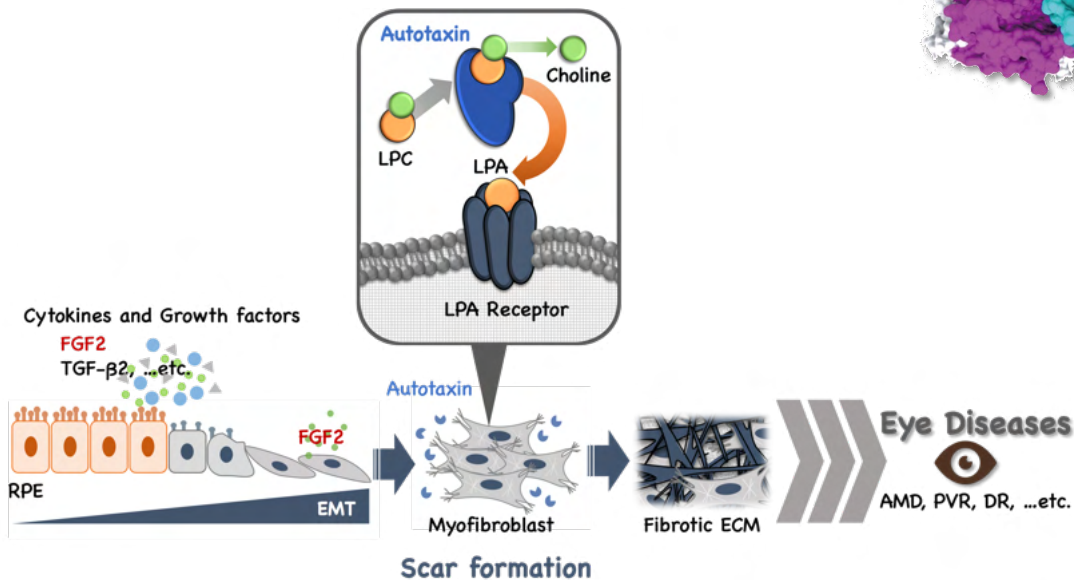
RBM-006 (抗Autotaxin アプタマー)

Autotaxin と RBM-006 について

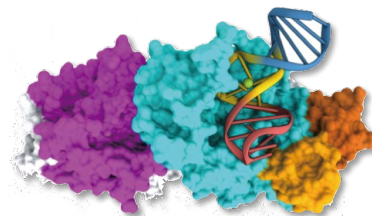
● Autotaxin(ATX)

リン脂質代謝酵素で、LPC → LPA を産生する

LPA は生体の機能維持に働く重要な脂質メディエーター



● RBM-006



2.0 Å crystal structure of the autotaxin/AX3 complex
Collaboration with Osamu Nureki's laboratory
Kato et al., *Nature Str. Mol. Biol.*, 23: 395-401, 2016

PVR適応のコンセプト

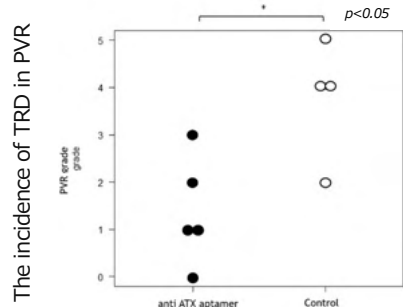
- PVRはRPE細胞やグリア細胞の活性化により線維原性の増殖膜が形成され、牽引性網膜剥離に伴う重篤な視力障害に繋がる疾患である。
- ATX阻害剤はRhoA経路、IL-6、ET-1、CTGF等の線維化因子の発現抑制によって抗線維化作用を示すと想定される。

RBM-006 (抗Autotaxin アプタマー)

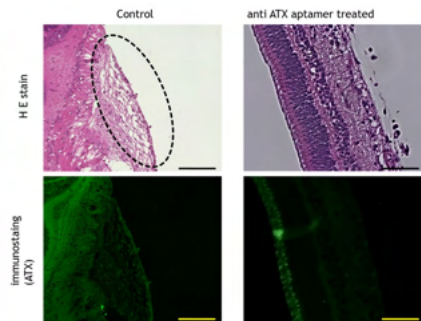
In vivo Preclinical data と 他網膜疾患への展開

● In vivo Preclinical data*1 (ブタPVRモデルを使用)

Effect of the anti-ATX aptamer on PVR in vivo.



Histological image of anti-ATX aptamer administration.



*1 Hanazaki H, Yokota H, Yamagami S, Nakamura Y, Nagaoka T. The Effect of Anti-Autotaxin Aptamers on the Development of Proliferative Vitreoretinopathy. *Int J Mol Sci.* 2023;24(21):15926.

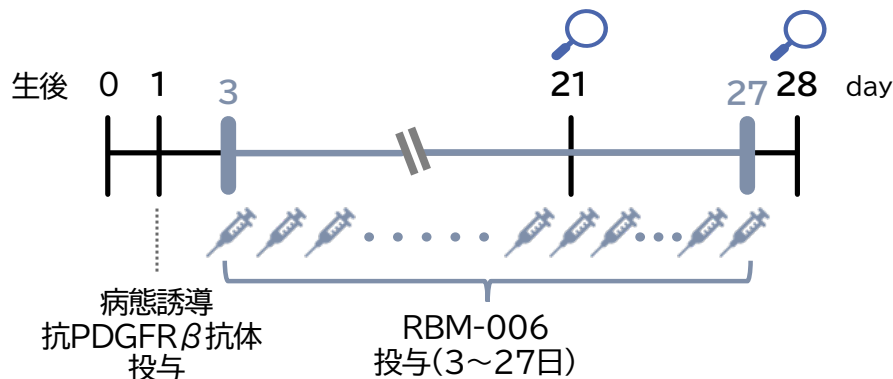
● 他網膜疾患への展開(東京大学眼科学教室と共同研究)

- ATXは緑内障患者において発現が亢進している
- ATX阻害剤により眼圧降下作用が認められる
- 正常眼圧緑内障モデルにおいてATX阻害剤により網膜神経節細胞保護作用が報告されている

疾患対象はPVRのみならず緑内障、糖尿病網膜症があり、治療の可能性をin vivoにて模索中

当社は各種の網膜疾患に対する薬理効果を包括的に解析する予定であり、その結果にもとづいて臨床開発を検討する。

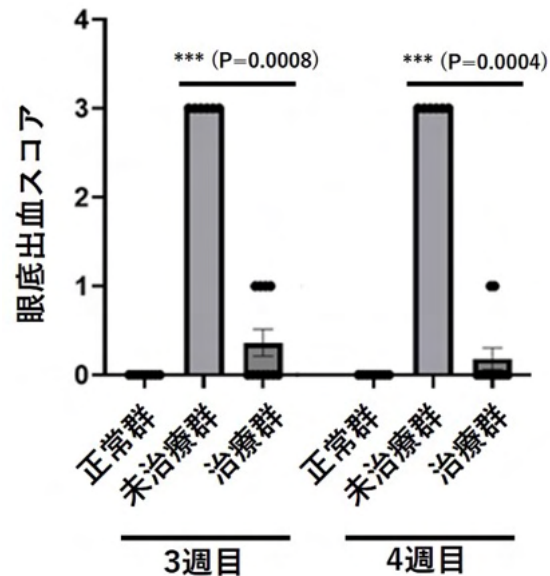
糖尿病網膜症モデルマウスにおける薬理試験



糖尿病網膜症モデルマウス



糖尿病網膜症では、網膜血管を取り巻くペリサイト(周皮細胞)の脱落がしばしば観察され、これが血液網膜関門の破綻や微小血管障害、眼底出血の原因となる。今回の抗PDGFR β 抗体を用いたマウス糖尿病網膜症モデルでは、網膜血管内皮を取り巻くペリサイトが脱落することにより、血液網膜関門の破綻と眼底出血を引き起こす病態が再現される。



RBM-006は糖尿病網膜症モデルマウスにおいて優れた薬理効果を示す

*2026年1月特許出願済



RBM-011 抗IL-21アプタマー 肺動脈性肺高血圧症(PAH)

国立循環器病研究センターNCVC(中岡部長ら)との共同研究

肺動脈性肺高血圧症(PAH)と IL-21

- **肺動脈性肺高血圧症(PAH)とは**

難治性呼吸器疾患に認定されている難病

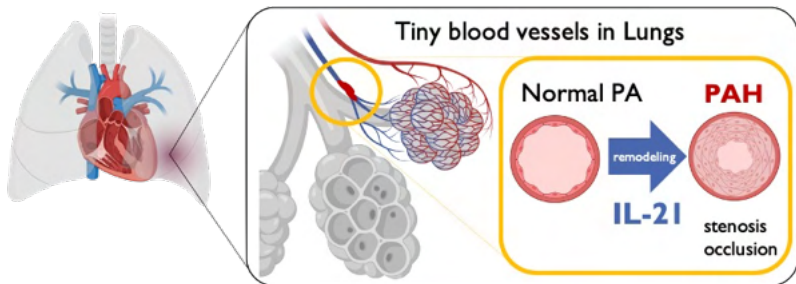
肺動脈壁が肥厚して血管の狭窄が進行した結果、全身への血液や酸素の供給に障害が生じ、最終的には心不全から死に至ることのある重篤な疾患

- **既存の治療法**

既存治療薬は血管を拡張させる作用を持つものであり、血管壁の肥厚を抑制する根本治療薬は存在しない

- **肺動脈性肺高血圧症(PAH)の原因**

IL-21(インターロイキン21)による肺動脈壁のリモデリング



患者数 (世界)

76,600

市場規模

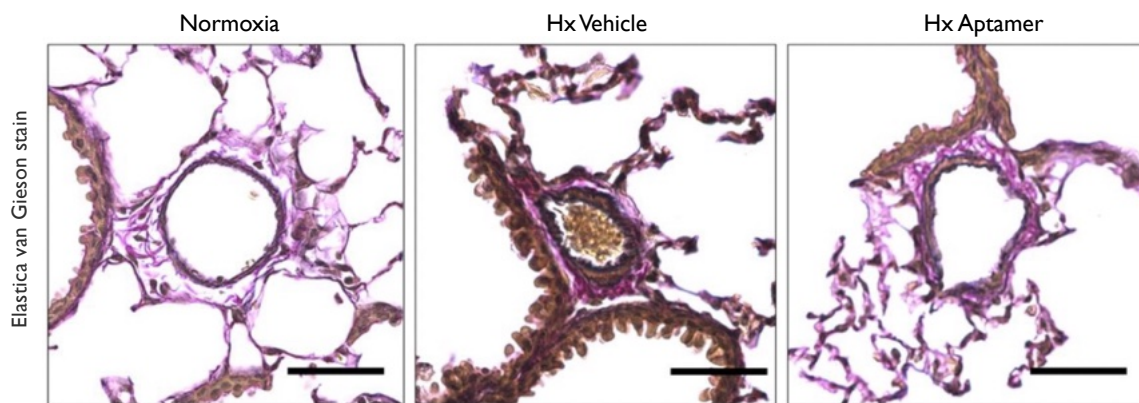
US\$ 1.35B

*患者数・市場規模
Informa, Datamonitor Healthcare を用い、
当社にて検索・作成。(2022/6/20)

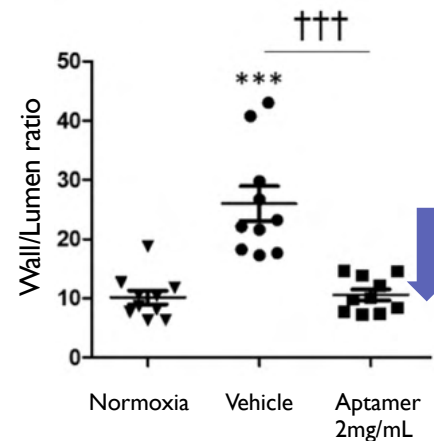
*Hashimoto-Kataoka T, et al. Proc Natl Acad Sci USA. 112: E2677-86 (2015)

RIBOMIC

肺高血圧症モデルマウス実験



Anti-mIL-21 aptamer significantly inhibited on smooth muscle in hypertrophy pulmonary arterial near trachea in PAH mouse model.



抗IL-21アプタマーによる肺動脈壁の肥厚抑制効果を確認

これまでの進捗と今後の展望

▷ 動物モデルでの検証実験

薬理効果を確認済み

▷ 臨床試験の準備

- 2021年 原薬のGMP合成を完了
- 2022年 毒性試験を開始、2023年6月終了
- 2024年 導出交渉を開始（事業提携を協議中）

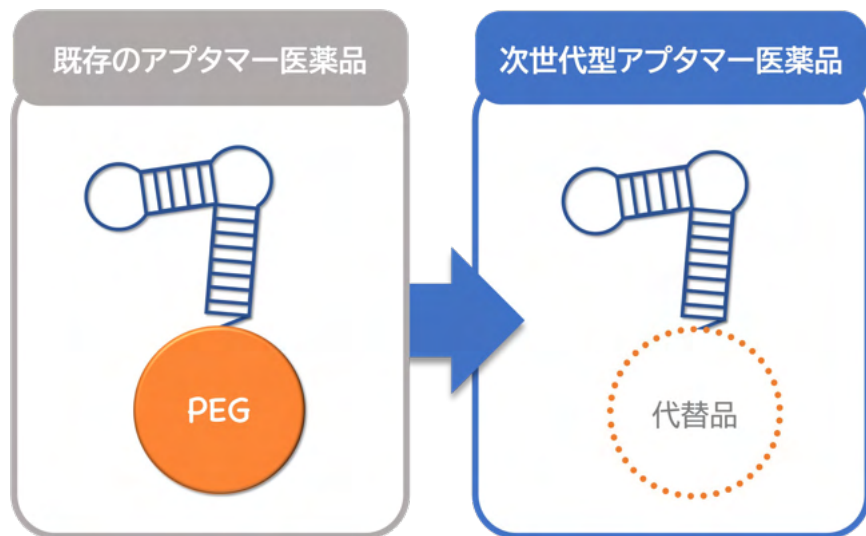
導出先での臨床試験の実施を計画





次世代型アプタマー医薬品の技術開発

次世代型アプタマー医薬品の体内動態制御に向けた新規技術開発



① 味の素株式会社との共同研究

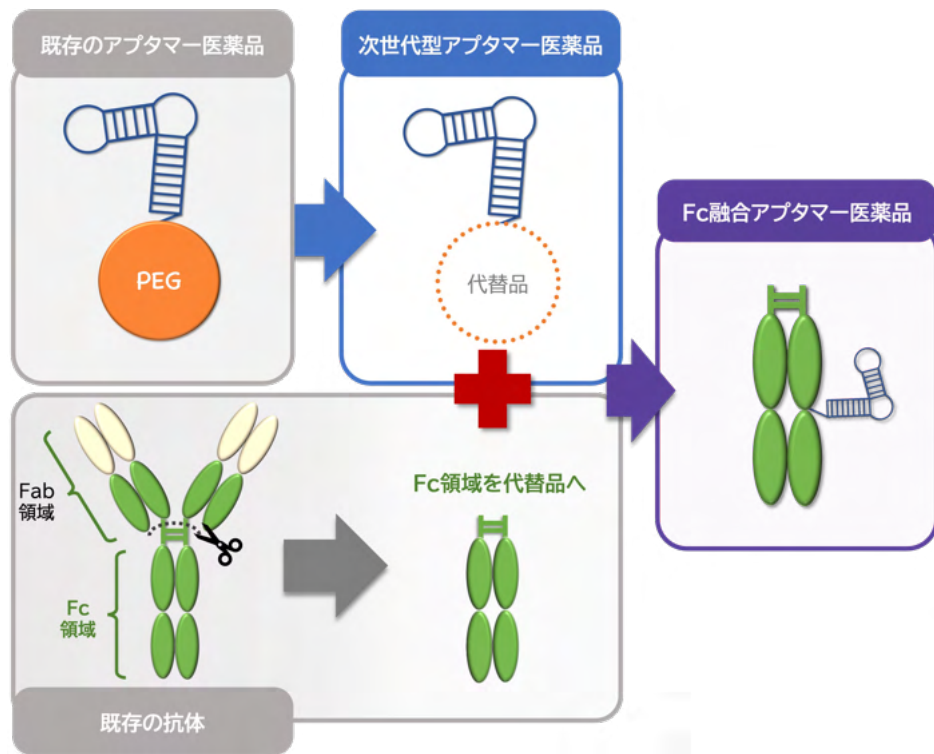
味の素社が有する抗体-薬物複合体製造技術 AJICAP®を用い、アプタマーの体内動態制御技術を開発

② 自社開発

自社で既存のポリマーを組み合わせ、アプタマーに適した代替品を開発
ポリエチルオキサゾリン(PEOZ)ポリマーとのコンジュゲートに関する特許出願
(特願2024-12285)

次世代型アプタマー医薬品の体内動態制御に向けた新規技術開発

味の素株式会社との共同研究



① 味の素株式会社との共同研究

味の素社が有する抗体-薬物複合体製造技術 AJICAP®を用い、アプタマーの体内動態制御技術を開発

アプタマーおよび免疫グロブリンのFc領域のコンジュゲートに関する特許出願 (特願2025-037963)

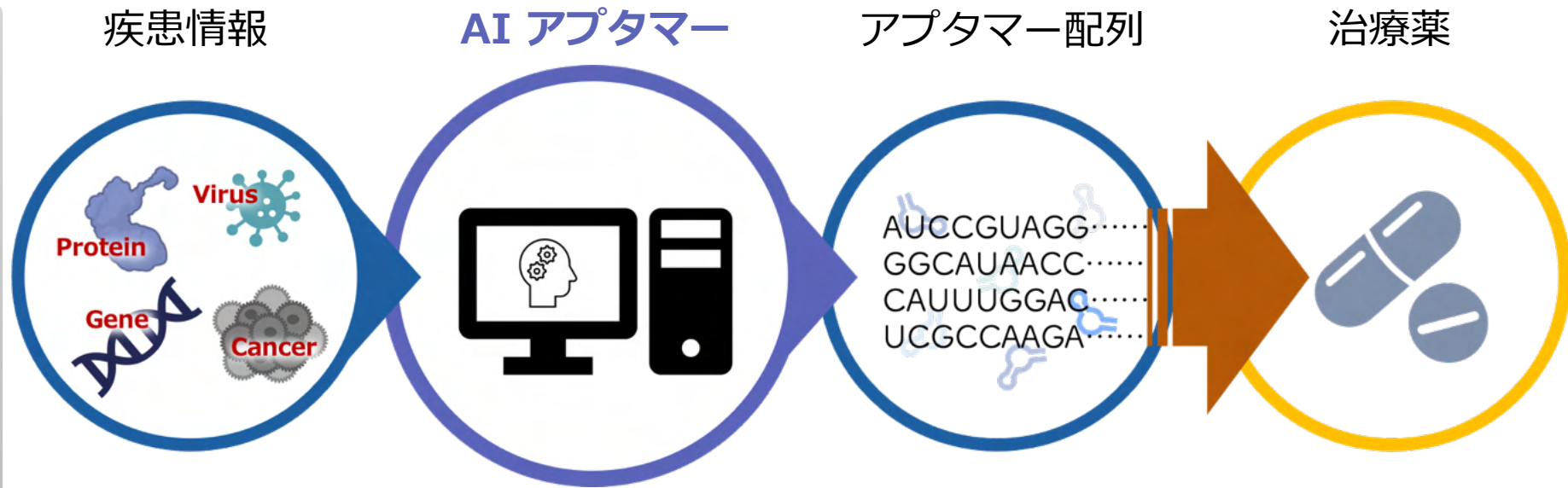
抗体Fc領域にアプタマーを融合させることにより、アプタマーの血中半減期を飛躍的に延長



AI（人工知能）アダプターの開発

早稲田大学理工学術院先進理工学部 浜田道昭 研究室との共同研究

AI アプタマーのコンセプト



AI アプタマーとは、人工知能(AI)を活用し、効率良くアプタマーのリード配列を取得すること

AI アプタマーの進捗

1 効率的なアプタマー探索手法の確立

アルゴリズム名: RaptRanker

コンセプト: SELEXデータから配列のクラスタリングを行う際、二次構造情報を加えることにより予測精度を向上させた

2 アプタマーデザイン手法の確立

アルゴリズム名: RaptGen

コンセプト: SELEXデータを深層学習によって学習し、学習した空間から配列を生成する技術
SELEXデータからは取得できない新規配列を取得

3 AI アプタマー手法を用いた新規アプタマーの創製

コンセプト: RaptGen を活用し、新規抗SARS-CoV-2 アプタマーの創出に成功

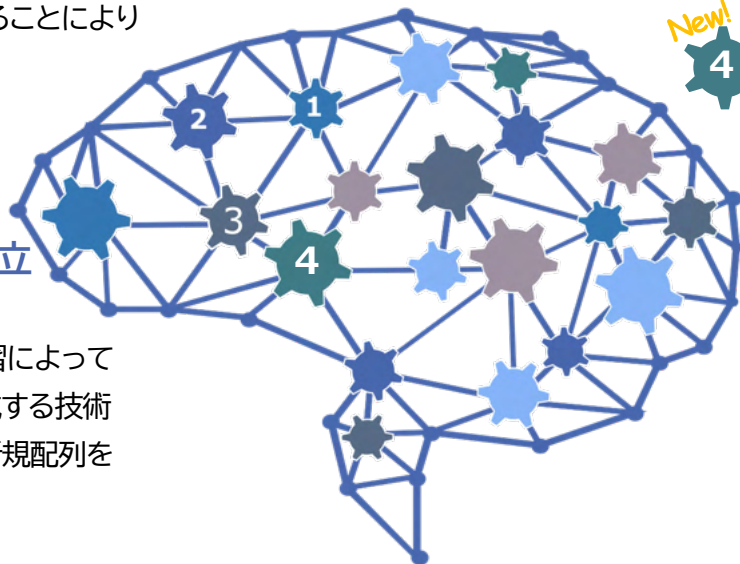
New!

4 AI を用いRNAアプタマー創製を開発の効率化

アルゴリズム名: RaptScore

コンセプト: アプタマーの標的に対する結合を大規模言語モデル(LLM)により高精度に評価する技術

論文名: RaptScore: a large language model-based algorithm for versatile aptamer evaluation



AI アプタマー創薬の実現を目指して

本研究は、早稲田大学 理工学術院 先進理工学部 浜田道昭 研究室を中心とした共同研究で進めており、下記の政府の支援を受けております。

1st



JST-CREST

研究課題: 人工知能技術を用いた革新的
アプタマー創薬システムの開発
対象年度: 2018年度～2020年度
金額計(税抜): 2,960万円

2nd



JST-CREST

研究課題: AIアプタマー創薬プロジェクト
対象年度: 2021年度～2024年度
金額計(税抜): 7,150万円

3rd



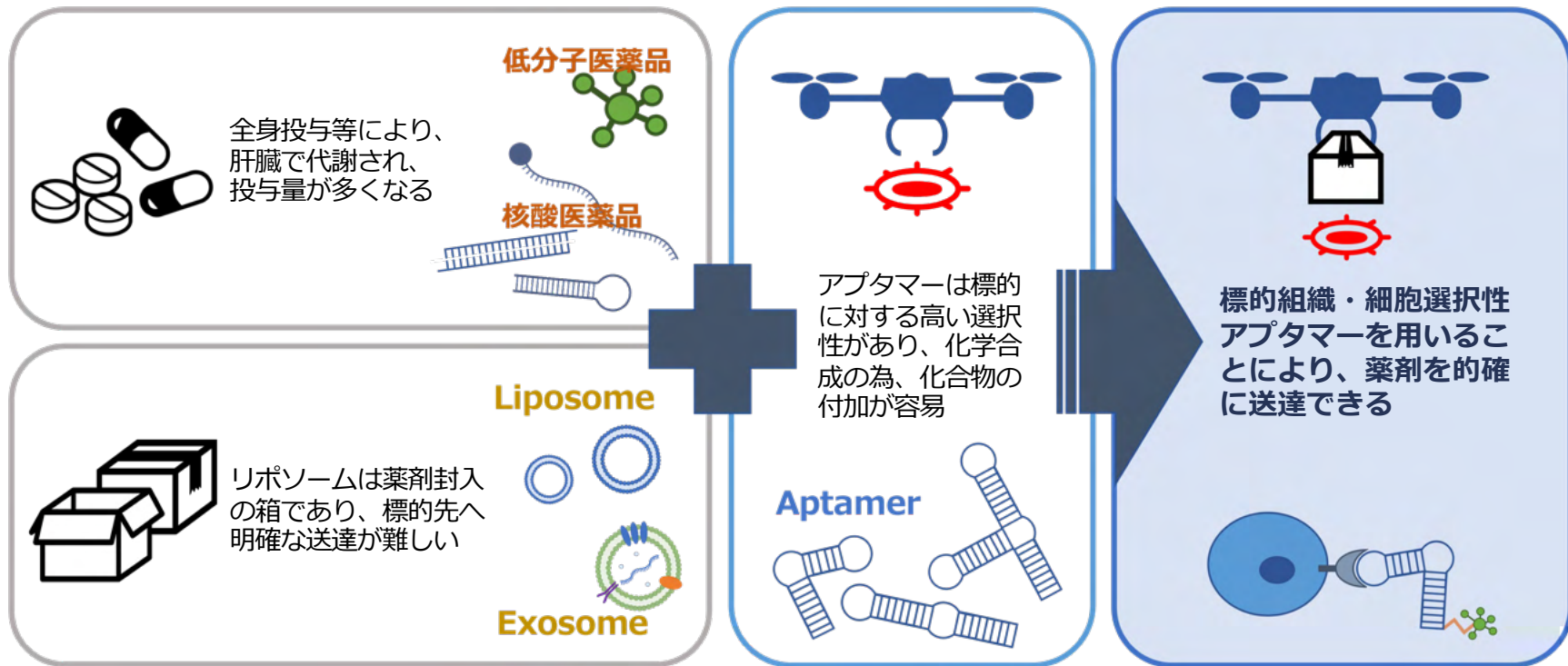
NEDO

研究課題: 量子・AI 次世代創薬
対象年度: 2023年度～2025年度
金額計(税抜): 5,318万円



DDS(薬物送達)アプタマーシステムの構築 創薬支援事業

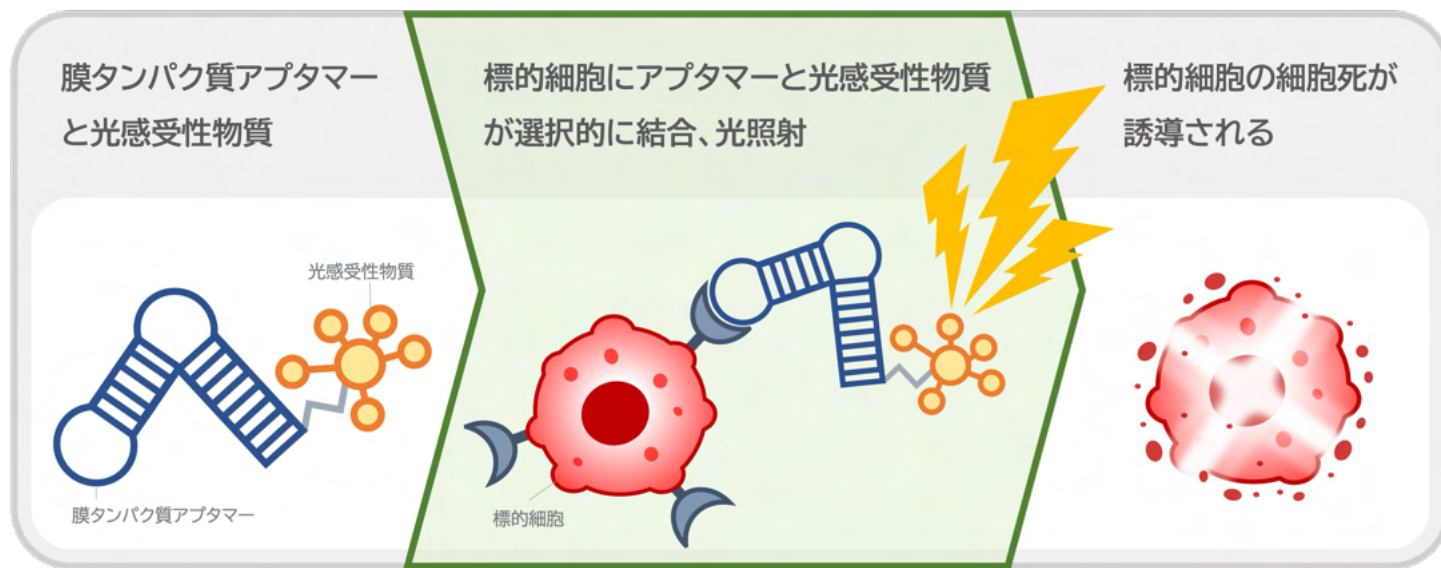
DDSアプタマーのコンセプト



新規DDSアプタマー技術開発の進捗

光免疫療法

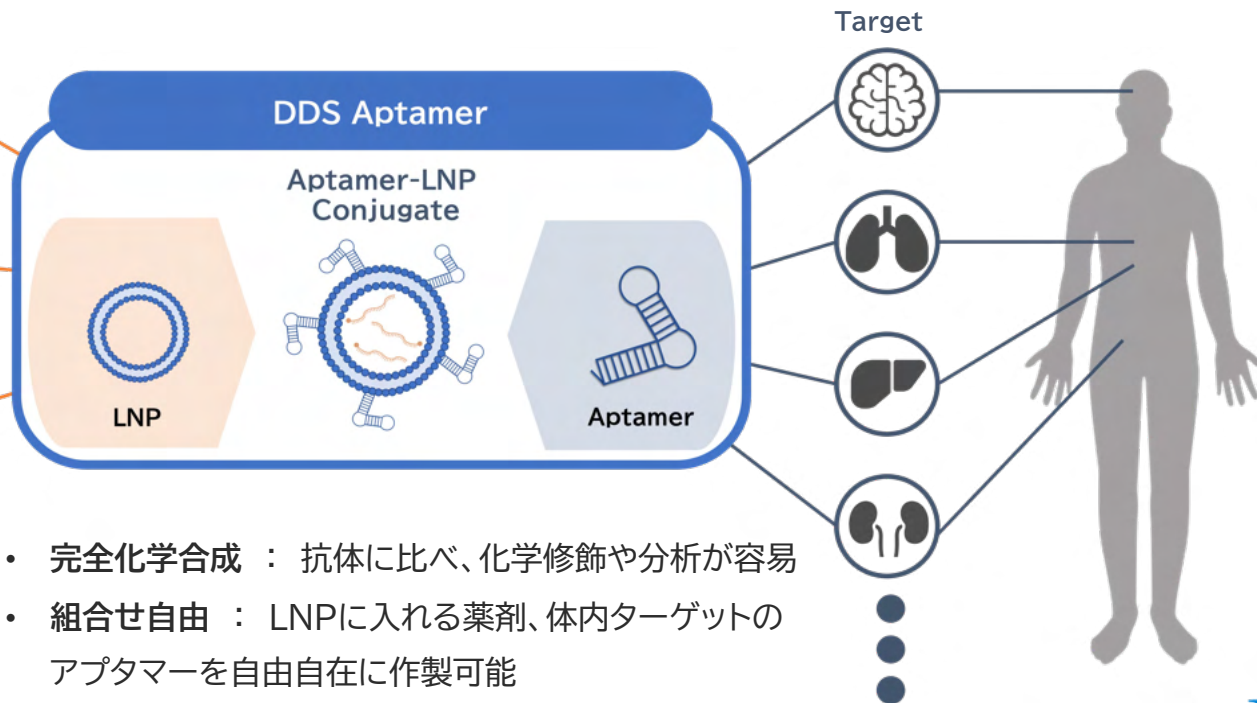
学校法人慈恵大学（東京慈恵会医科大学） 消化器・肝臓内科 光永真人 講師のグループとアプタマーを用いた光免疫療法の共同開発を実施



新規DDSアプタマー技術開発の進捗

アプタマー-LNP(修飾脂質ナノ粒子)

Encapsulated
Drugs



- 完全化学合成 : 抗体に比べ、化学修飾や分析が容易
- 組合せ自由 : LNPに入れる薬剤、体内ターゲットのアプタマーを自由自在に作製可能

*2025年7月
特許出願済

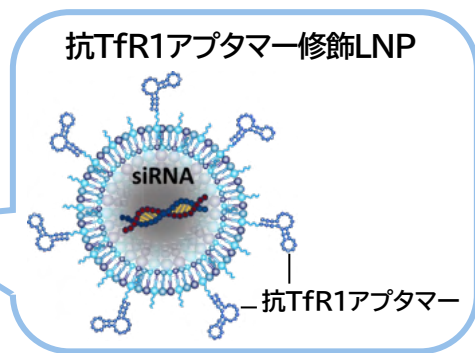
抗トランスフェリン受容体1(TfR1)アプタマー修飾LNP *in vivo*試験

～主要臓器別評価～

トランスフェリン受容体1(TfR1)

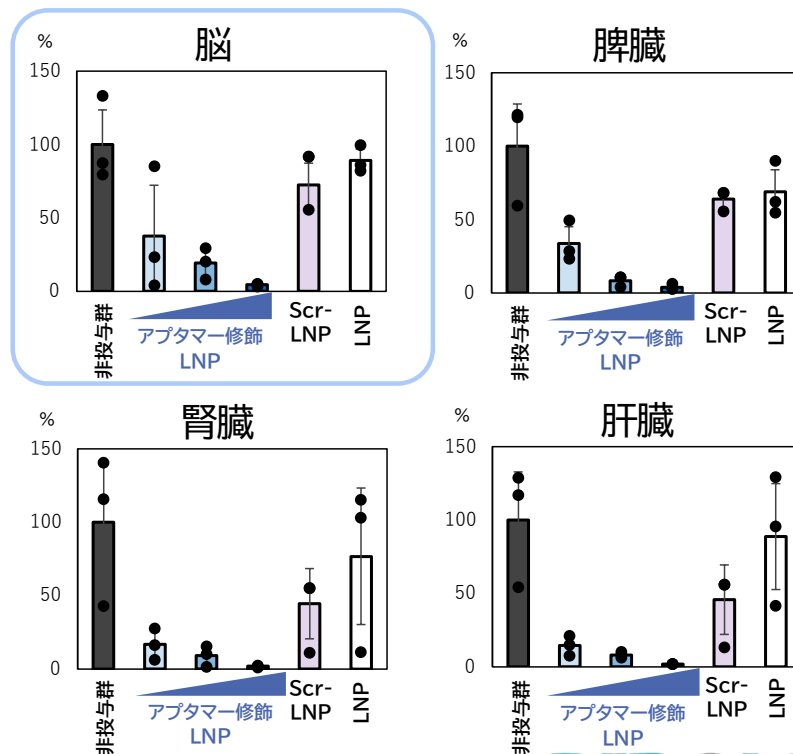
細胞が鉄を取り込むための受容体であり、脳の血管にも発現している。そのため、血液脳関門(BBB)を介して脳へ物質(医薬品)を輸送する手段として各企業が開発に取り組んでいる。

各臓器での薬効を評価



脳への核酸医薬品送達を確認

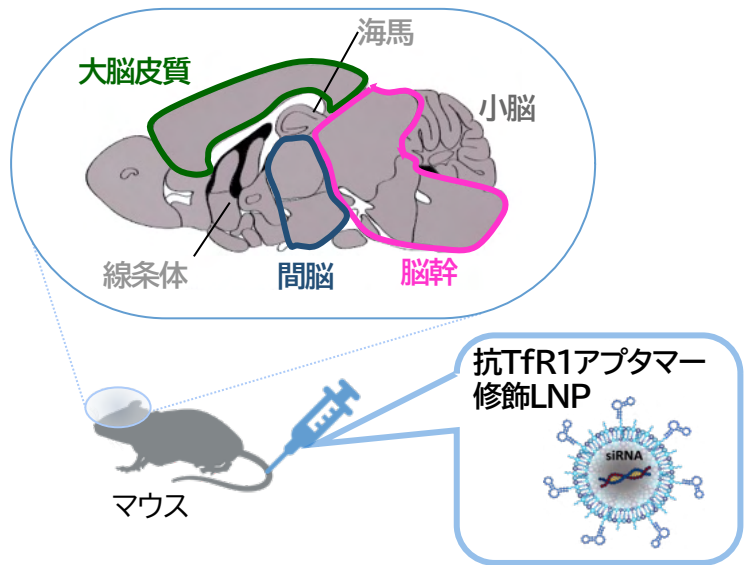
- LNPに梱包したsiRNAより阻害された相対的なmRNA量



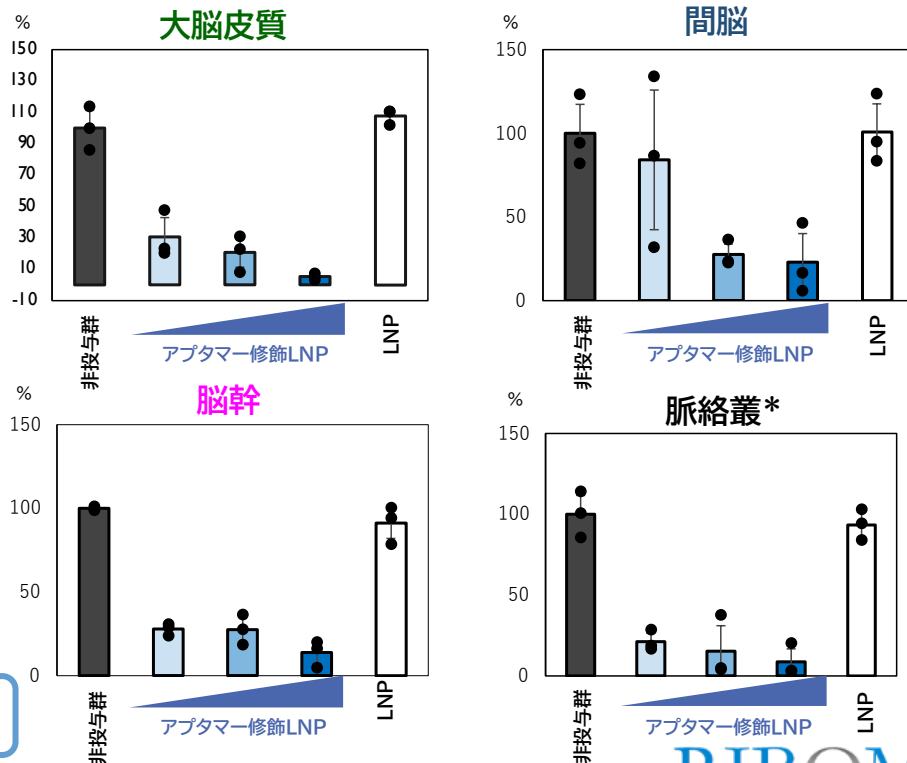
抗トランスフェリン受容体1(TfR1)アプタマー修飾LNP *in vivo*試験

～脳部位別評価～

脳部位での薬効を評価



● LNPに梱包したsiRNAより阻害された相対的なmRNA量



* 神経細胞を含まず血管と特殊な細胞からなる組織

創薬支援事業：DDSアプタマー技術

DDS Aptamer



プラットフォーム
技術の開発

- ターゲットのアプタマーを創製
- 運びたい薬剤(LNP、siRNA、低分子薬 等)を調整
- 取得したアプタマーと薬剤の複合体を作成



in vivo

デリバリーの実証

- 動物実験で体内動態を確認
- ターゲット先での薬効を確認



企業と提携

- 複数の企業と提携
- 創薬支援事業は初期段階で複数契約が可能(収益拡大)

創薬支援事業の提携



共同研究・業務委託契約(評価試験)

2025年12月

リードファーマ株式会社



2026年3月

日産化学株式会社



2026年4月

SK Plasma Co., Ltd.



2026年6月

国内製薬企業

Next Stage(本契約)へ

中枢神経系ドラッグデリバリーシステムの他社導出金額

- 評価試験後の導出金額

提携年	技術元	ライセンス先	ライセンス技術	モダリティ	標的	契約一時金 (million \$)	総額 (million \$)
2018年	Denali	武田薬品工業	Antibody Transport Vehicle (ATV)	抗体	TfR	150	非公表
2021年	Bicycle Therapeutics	IONIS	Bicycle peptide	ペプチド	TfR	45	非公表
2023年	Vect-Horus	NovoNordisk	VECTrans	ペプチド	非公開	非公表	327
2023年	JCR ファーマ	アレクシオン (アストラゼネカ)	J-Brain Cargo	抗体	TfR	非公表	非公表
2024年	Vect-Horus	IONIS	VECTrans	ペプチド	非公開	2桁 million \$	非公表
2025年	ABL Bio	GSK	Grabody-B	抗体	IGF-1	50 (£38.5 M)	2,700 (£2,075 M)
2025年	JCR ファーマ	アレクシオン (アストラゼネカ)	JUST-AAV	AAV	TfR	非公表	825
2025年	JCR ファーマ	アキュメン	J-Brain Cargo	抗体	TfR	非公表	515

*各社IR等のニュースを元に弊社にて作成

目次

- 会社概要とアプタマー
- 事業内容と成長戦略
- 財務概要
- その他

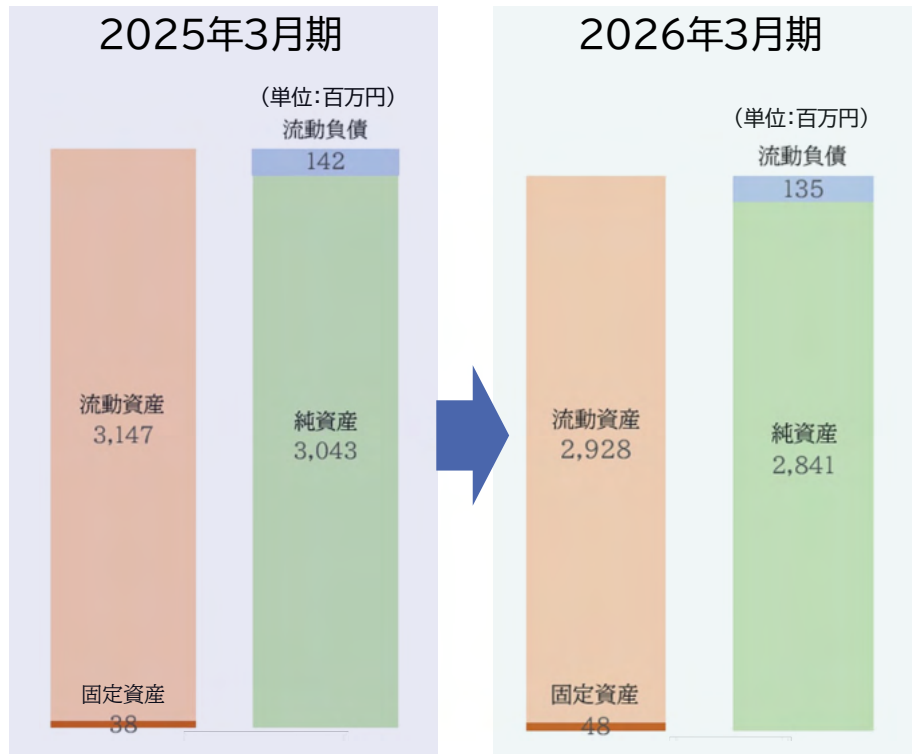
業績ハイライト

- 創薬事業:軟骨無形成症(ACH)治療薬の開発が第2相臨床試験を完了、第3相試験に向けて準備開始
- 創薬支援事業:革新的なDDS技術の開発に成功し、事業収益を獲得

(単位:百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減額	差異分析
事業収益	2	3	1	2025年3月期:アプタマー販売 2026年3月期:DDSの技術提供
営業利益	▲1,050	▲1,207	▲156	研究開発費の増加 136百万円 一般管理費の増加 21百万円
営業外収益	40	82	41	助成金 22百万円 東大共同研究返還金 11百万円 資金運用利息等 8百万円
経常利益	▲1,014	▲1,138	▲123	
当期利益	▲1,018	▲1,145	▲126	
研究開発費	667	803	136	ACH:第2相臨床試験の費用が主要因
流動性の状況 (流動資産)	3,037	2,827	▲209	第18回新株予約権の行使による資金調達を実施 前事業年度から209百万円の減少に留まる

貸借対照表の状況



主要な変動要因

● 資産の部

- ①第18回新株予約権行使により
現金・有価証券が増加 +923百万円
- ②事業活動による支出 ▲1,110百万円

● 純資産の部

- ①第18回新株予約権行使により
資本金・資本剰余金が増加 +923百万円
- ②当期純損失 ▲1,145百万円

事業費用として十分な資金残高を保有

2026年度事業計画

- 創薬事業:軟骨無形成症(ACH)治療薬の開発について、第3相臨床試験開始
- 創薬支援事業:開発したDDS技術を基に、前期に引き続き事業収益を計上予定(Vision 2030の目標の一端) (単位:百万円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	増減額	見通し
事業収益	3	17	14	創薬支援事業:DDS技術提供による事業収益増加
営業利益	▲1,207	▲1,547	▲340	
営業外収益	82	27	▲54	助成金収入の計上や資金運用による収益を予定
経常利益	▲1,138	▲1,542	▲404	
当期利益	▲1,145	▲1,543	▲398	

研究開発費	803	1,038	234	ACH:第3相臨床試験の実施に伴う研究開発費増加
流動性の状況 (流動資産)	2,928	2,153	▲775	第19回新株予約権の行使を予定 事業費用を勘案後も十分な資金残高を保有

実施中の資金調達に関する説明

第三者割当による第18回新株予約権乃至第20回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行及び買取契約の締結(2025年7月23日決議)

概要

割当日	2025年8月8日
発行株式数	31,500,000株(315,000個 潜在希薄化率 70.6%※1) (18回…9,500,000株、19回・20回…各11,000,000株)
行使期間	2025年8月12日～2028年1月31日
資金調達の額	総額34億2千万円(当初行使価額109円)
割当先	EVO FUND
買取契約	行使コミット条項※2、行使停止指定条項
資金用途	RBM-007(umedaptanib pegol)を用いた ACHに対するPhase 3を実施する費用

※1 本新株予約権は原則として約2年6ヵ月間にわたって段階的に行使される予定であるため、かかる希薄化は一度に生じるものではありません。

※2 各回号すべてに、期間内に各回号の新株予約権をすべて行使する条項を設けております。

第18回 新株予約権(行使完了)

行使済株式数	9,500,000株
資金調達額	約9.2億円

第19回 新株予約権(行使中)

行使済株式数	1,640,000株
未行使株式数	9,360,000株
資金調達額	約1.3億円
コミット期間	2026年6月15日から2026年9月18日まで 行使停止をし、無効になっております。

第20回 新株予約権(未行使)

未行使株式数	11,000,000株
コミット期間	第20回 2027年4月1日～2027年12月31日

* 2026年5月末日までの行使状況

目次

- 会社概要とアプタマー
- 事業内容と成長戦略
- 財務概要
- その他



社会に対する企業価値の創出

サステナビリティの取り組み

Environment 環境

- リサイクル活動
- 社内ペーパーレス化
- 研究資源の管理
- 廃棄物の徹底した分別管理



Social 社会

- 次世代の研究者への貢献
- ダイバーシティの尊重
- 働きやすい環境づくり
- 従業員の労働安全衛生
- イノベーション創出



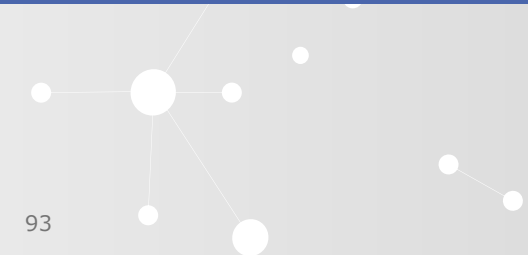
Governance 企業統治

- BCP対応/ニューノーマルの推進
- 経営ガバナンス強化
- 株主・投資家との対話
- 法令遵守





リスク情報



リスク情報

主要なリスク	顕在化可能性	顕在化時期	顕在影響	対応策
①医薬品研究開発全般 <ul style="list-style-type: none"> 医薬品候補となるアプタマーが得られない場合、当社の事業等に影響を及ぼす可能性があります。 医薬品が上市に至るまでの、開発過程において、開発中止や延期となる可能性があります。 特許出願が成立しない場合、ライセンスアウトに影響を及ぼす可能性があります。 	中	短/中期	大	<ul style="list-style-type: none"> 創薬基盤技術の高度化により有望なアプタマー候補の創出確度の向上に努めます。 継続して複数のパイプラインを保有、推進することにより、リスク分散を行います。 特許事務所や外部専門家を活用し、知財委員会にて検討・調査を実施したうえで最適な特許出願を実施します。
②株式に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 株価水準によっては、第三者の株式取得を通じた敵対的買収が行われ、経営的なリスクが生じる可能性があります。 株価水準によっては、グロース市場の時価総額基準に抵触し、上場廃止となった場合には、資金調達に大きな影響を及ぼす可能性があります。 	低	中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> 既存株主に対しての適時的確な情報発信を通じた友好関係を構築 機関投資家など、新たな安定株主の確保 グロース市場が求める高い成長性の実現(企業価値の向上)
③会社組織に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> 事業全般の推進を担う代表取締役社長の経営執行が困難になった場合や優秀な研究人材が退職した場合には、当社の事業等に影響を及ぼす可能性があります。 	中	不明	大	<ul style="list-style-type: none"> サステナブルな会社経営、人材採用並びに後継者育成 研修制度の充実・人事制度の構築等 役員構成の配慮
④資金繰り <ul style="list-style-type: none"> 安定的な収益計上に至るまでには相当な期間を要するため、先行投資段階において、期間損益がマイナスになる傾向があります。必要なタイミングで資金確保ができない場合、事業の継続に重大な懸念が生じる可能性があります。 	中	中長期	大	<ul style="list-style-type: none"> 後続のパイプラインのライセンス・アウトや新規共同研究契約の獲得、公的研究機関からの助成金の獲得や複数の資金調達手段の検討を行い、資金需要に対応いたします。

- 上記以外のリスク情報につきましては、直近の有価証券報告書「第2 事業の状況、3 事業等のリスク」をご参照ください。

留意事項

当該資料は当社の事業内容を説明するために作成されたものであり、勧誘を目的に作成されたものではありません。当該資料に記載された内容については合理的な注意を払うよう努めておりますが、当該資料の作成時において入手し得た情報に基づき、当社の判断において記載したものです。市場環境等当社外の事項に関する情報については、その正確性、完全性について保証するものではなく、また、業績の見通し等の将来に関する記述については、リスクや不確実な要素が含まれているため、実際の業績は大きく異なるものとなる可能性があり、これについて確約や保証を与えるものではありません。投資等を行われる際には、投資家ご自身の責任と判断で行っていただくことを前提に当該資料をご提示させていただいております。

なお当該資料に記載されている開発品の情報は、当該製品を宣伝・広告するものではありません。

- 次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」の開示は、2027年6月の株主総会前を予定しております。



URL : <https://www.ribomic.com>

Contact information : info@ribomic.com